# 村上博輔日記抄　十三

自大正十一年四月一日
至大正十三年三月三十一日

大正十一年

四月一日　土　半晴　（前略）午後試験場ヲ作ル。中学部入学式ヲヤッテ居タ。（後略）

四月三日　月　晴　試験ノコト種々出テ都合ヨクスル。午前湯ニ往ク。弓道部大会アリ、見ニ往カズ。（後略）

四月四日　火　曇　文学部入学試験、英文和訳佐藤〈清〉氏、和文英訳大藤〈豊〉氏ニ頼ム。畑〈歓三〉氏足ニ腫物出来タリトノコトヲ聞ク。杉村〈一枝〉氏ヨリ安原ノコト並ニ商科乱脈ノコトヲ聞ク。坪川社会科ニ聴講生トシテ来リタシト云ウテ来ル。昼飯ト菓子小使ガ宅ヘモテ来テクレル。夜小野〈善太郎〉氏来リ入学者ノコト聞カル。雑事ニ忙ガシキ日ナリキ。（後略）

四月五日　水　晴　昨日ニツゞキ入学試験、午後作文ノ点ヲ採ル。非常ニ多忙ナリ。少シ油断スルトスグ手落ガ出来ルノデ大心配。幸ニ何モ角モ都合ヨク運ンデ日ノ暮レヌウチニ片付イタ。

四月六日　木　曇雨　九時ヨリ職員会議、入学者ノ選択及学年試験ノ或部分ニ再考ヲ加フル。一時コロマデカヽル。其ヨリ発表ノ準備ニカヽラントスルニ柴野〈秀夫〉氏居ラズ、小沢〈濵〉氏ヲ捜シダシテ頼ミ出来上ッタ所ヘ帰ッテ来テ友人ガ来タカラ何処カヘ往テ居タト云フ。食堂ニモカフェーニモ居ラナンダノヂャ。不都合ナ人間ヂャガ怒ラナンダ。〈イアン・〉オゾリンノ点数ヲ除外シタリ、勝手ニ試験心得ヲ印刷シテ出シタリ、端書ヲ出シタリシテドモナラン。（後略）

四月八日　土　曇　朝消費組合ヘ便箋ヲ買ヒニ往キ、川瀬小太郎(1)、小野善太郎両氏ヘ手紙ヲ書イテ出ス。商科学科試験成績ノ発表トツゞイテ人物試験体格試験ヲヤッテ居タ。

社会科四年ノ山本〈利寿〉生話ニ来リ餅ヲ買フ。ヅクリン(2)デ一個三銭、三原堂ノトハ甘イ。午後種々ノ人ヤッテ来ル。川瀬小太郎氏ヨリ試験問合セノ電報（返信ツキ）来ル。（後略）

四月十日　月　晴　渋谷生其後入学ヲ求ムルタメニ種々ノ人来ル。正午頃マデ絶エズ。其後ハミル館ニ行キ神学部ニ往キ合併教授ノコトヲ話シテ帰ル。〈T・H・〉ベーデンニ一本クラハス。此男ノヤウナ奴ノ指導スル限リ同部カラ大キナ人物ハ出マイ。商科ノ発表ヲ見ル。（後略）

四月十一日　火　雨　始業式九時ヨリアリ。新任教師二名顔ヲ出ス。善気風ヲ作ルコト、其中ニ新来ノ人ヲ入レテ化スルコト。学校ハ教師ヨリモ此気風ニ由テ多クノモノヲ得ルコト、是ハ諸子ガ自ラ作リ出スモノナルコト、是ヨリ講堂ノ時間ヲ厳守スルコト、昨年ノ初ノゴトクセヨ、〈H・F・〉ウ〈ヅウォース〉氏来ラズバ予ガ礼拝ヲ始メルト云フコトヲ言渡ス。畑〈歓三〉商科ニカハリタリト云フコトヲ〈H・F・〉ウ〈ヅウォース〉氏ヨリ聞キ大ニ悦ブ。正直ヲ主トスル文科ノ会ニ陰険ナモノハ到底合ハヌ。今迄彼ガ為ニ一通ナラヌ管理上ノ妨ヲ蒙ッタ。

四月十二日　水　晴　今日ヨリ授業アル筈ノ所教科書等揃ハヌヨリ多クハガタ〳〵ナリ。礼拝時間ニ聖書ヲ読ム。〈C・J・L・〉ベーツ氏談。午後無試験入学者ノ会見、満足ナル結果ヲ得タト〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏言ヘリ。又朴ノ試験ヲシテ見ル。全ク出来ズ、困ッタモノナリ。大分県南海部郡東中浦村中越小学校内中村清ヨリ復校時機問合セ来ル。（後略）

四月十三日　木　小雨　礼拝松下〈積雄〉氏。朴ノコトヲ世話シテ松本ニ紹介、頼ミ、次ニ中学部ヘ連レ行ク。真鍋〈由郎〉氏ヲ捜シタガ不在ナノデ三宅〈嘉策〉氏ニ頼ム。依托シテ帰ル。後又田中〈義弘〉ニ逢ヒ真鍋ニ逢ヒ話ス。是デ出来ネバ神学部ヘ頼ム筈ナリ。二年ノ業忙シイノト本ガ無イノデ休ム。午後二時一年入学式。河上〈丈太郎〉聖書、松下〈積雄〉祈祷、〈C・J・L・〉ベーツ、松本〈益吉〉ノ話。予自意的ニ規則ヲ守レト云フコト、良キ気風ヲ作レト云フコト、チャペルニ集レト云フコトヲ話ス。（後略）

四月十四日　金　晴　神学部比較宗教始メテ教ヘル。礼拝河上〈丈太郎〉氏、其他ノ組書物来ヌノデ業ヲヤスム。教務マダ忙ガシ。（後略）

四月十五日　土　晴　（前略）講堂佐藤〈清〉氏。午後婦人会アリトテ〈村上〉八重、松本〈益吉〉ニ行ク。佐藤夫人子ヲ連レテ礼ニ見ユ。（中略）文学部新校舎ニ移転、一寸見ニ往ク。（後略）

四月十七日　月　晴　今日ヨリ新校舎ニテ業ヲ授ク。マダ調ハザル部分アリテガタ〳〵ナリ。チャペル岸波〈常蔵〉氏。予ノ貰ヒタル時間割談アリテ三年休ミニナル。（後略）

四月十八日　火　晴　朝時計ガ間違ヒ作文ノ時間一寸遅レル。チャペルデ加(3)五章ノ末ヲ読ム。〈J・〉エンヂコット(ママ)ノ談アリ。源氏ノ印刷ヲヤル。（後略）

四月十九日　水　晴　講堂デ鵜崎〈庚午郎〉ノ話ヲ聞ク ト張紙ガシテアッタガ、聞クホドノモノデモ無カッタ。午後五時カラ新講堂ノ食堂デ理事等ヲ招待シテ食事ヲスル。一円出シハヨイガ電灯ガツカヌデ真暗、地下室ノ気持モ冷々ト地獄ノ集会ノヤウデアッタ。〈J・〉エンヂカット〈D・R・〉マッケンヂーガ牛頭馬頭ノヤウナ声ヲ出シテ刺ノ多イ話ヲシタ。ソレデモ名ハ平和ノ使徒、愛ノ役者ト云フノヂャ。夜川瀬生(ママ)小太郎氏ノ手紙ヲ持テ庭マデ来ル。（後略）

四月二十日　木　晴　九時ヨリ講堂献堂式(4)、其ノ積リデ居ナカッタ壇ノ上ニ上ラサレル。プログラムノ通リ十一時半マデカヽル。〈J・〉エンヂカットノ話日本ノ伝道者諸君ノ話ト何モ変ノナイ流行ノ青年ヲ挙ゲタ而モ大ナル指導者ガイルト矛盾シタ所モアッテキリストヲ信ゼヨト結ブ平凡ナモノデアルガ我ノ強イ自惚レタ西洋人ダケニ元気ヨクヤル。有吉〈忠一〉ノ祝辞ニ至ッテハ甚ダ振ハン。豆腐ニ湯ヲカケタヤウナモノデ意味ノナイ随テ力ノナイモノデアッタ。是ガ所謂官僚式不徹底デ外国カラ侮ヲ受ケル標本デアル。神学生書物ガ無イノデ休ンデ帰ル。（中略）木村〈巳之吉〉君ノ北京ヨリ送ッテクレタ太上感応篇(5)着ク。

四月二十一日　金　晴　平岩〈愃保〉講堂ニテ話ス。其時間ガ延ビテ神学部ヘ往クト生徒ガ居ラン。今日学校ニ居通シテ見タガ非常ニ疲レタリ。此技ハ出来ズ。ミッション会議ノ間〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ガ出ヌノデ困ル。（後略）

四月二十二日　土　曇　半日ハ学校ニ、半日ハ婦人会ト寺参リノ留守番、運動モ出来ズ、野球ヘモ往カレズ、〈神戸〉二中トアッテ十五対五デ勝ツ。寝屋川ノ競技ガアッテ古塚ヤ金ガ勝ッタ。

四月二十三日　日　曇　教会松下〈績雄〉ノ説教今日モ止ムナク忙ガシイ。（後略）

四月二十四日　月　雨　朝祈祷会ヘ往タガ第一ベルガ鳴タノデ教室ヘ往ク。チャペルデ〈R・C・〉アーム〈ストロング〉氏話ヲスル。平凡ナコトヂャガ言ヒ様ガドッシリトシテ居ル。（後略）

四月二十五日　火　晴　朝ノ祈祷会ニ列ス。講堂ノ話誰

モ来ヌト云フノデ今田〈恵〉氏ニ頼ム。（後略）

四月二十八日　金　晴　午後教師会議アリ。追入学等ノコトヲ一切済マス。帰宅後気分ガ悪イノデ体温ヲ計ルト七度五分アリ。感冒ト見エタリ。解熱剤ヲ服シ夜早ク寝ル。神学部今日須磨ニ遠足ス。（後略）

四月二十九日　土　晴　合同チャペルデ松本ガ叫ブ。（後略）

五月一日　月　晴　チャペルデ平野教会ノ牧師[6]ノ話アリ。全テ救世軍ナリ。英国水兵ノ通弁ト云フノデ二年以上業ナシ。午後レナウン号ト蹴球アリ。段違ヒノ上ニゴールキーパー非常ニ悪ク半時マデニ五点入レラル。感冒ノ工合悪ク帰ッテ寝ル。熱七度五分マデ上ル。（後略）

五月二日　火　晴　午後退屈デアッタカラ学院グラウンドニ往テ見ルトレナウン対ダーバンノ蹴球戦ガ半時前デアッタ。人ニ聞イテ見ルト一対一ノ由。帰ッテ〈村上〉槙三ニシラセテ又見ニ往ク。到々レナウンガ一点入レテ勝ッタ。近来見タ壮快ナ球戦デアッタ。アッソシェーションデモ是ナラ面白イ。

五月三日　水　晴　（前略）午後関西〈学院〉対ダーバンノ蹴球戦[7]アリ、四対二デ負ケル。

五月六日　土　晴　大チャペル始マルマデニ十五分カル。済ム時間十分遅レル。（中略）午後雄弁会、人ガ来ヌノデ延期、神学部ノ集リニ往テ見タガ誰モ居ランデ帰ッテ湯ニ往キ養生スル、（中略）夜幻燈ヲ見ニ行ク、南極探検。帰リニ音楽ヲ聞ク。（後略）

五月七日　日　晴　（前略）教会〈C・J・L・〉ベーツノ説教。信仰トハ基督ノ権威ヲ認ムルコト、其支配（リーダーシップ）ニ服スルコト、云フタガ近頃ハ道徳ヤ慈善ヲ以テ信仰ニ替ヘントスルモノガアルト云フタノハヨカッタ。（後略）

五月八日　月　晴　今朝ヨリ小平[8]某〈國雄〉ト云フ人ノ伝道デ中央講堂ニ合同礼拝ヲスル、日本基督式、伝道者式ノ話ヂャ。（後略）

五月十日　水　晴　（前略）帰リニ一年ト先生組（中略）野球ヲ見ル。四時半ヨリ第二啓明寮ノ紀念会ニ呼バレテ行ク。夜帰ル。

五月十一日　木　曇　（前略）午後文学部ヘ往クト曽木〈銀次郎〉ノ子ガペンヲ盗マレタト云ウテ来タ。一昨日盗マレタト云フノヂャカラ調ベガツクマイ。一体学生ノ中ニモ物ヲチョロマカス奴ガ多イ。午後湯ニ往ッタガ作文ヲ見ルノデ散歩ガ出来ナンダ。

五月十二日　金　晴　午後四時半カラ歓迎親睦会ガア

ルト聞イテ居タガ、留守番ヤラ何ヤラデ到ニ往カレナンダ。夜熊内橋マデ散歩スル。

五月十四日　日　晴　晩餐式ヲ手伝ウテクレヨト云ハレテ助ケル、〈C・J・L・〉ベーツ氏ヲ。松下〈績雄〉君ハマダ資格ガナイガ一緒ニ立ツ。今日ハ須磨ニ角力ガアル。敏馬ニ高商ノボートガアル。午後ハ武徳殿[9]ニ坪田〈寿男〉ノ追弔ヲ兼ネタ剣道大会ガアッテ往ク。東〈晋太郎〉先生ハ宜イガ、神崎〈驥一〉部長モフロッコートデ朝カラチャント来テ居タ。学生ハ悦バウガ安息日ノ厳守ト云フコトハ何如スル。試合ノ面白イノハナカッタ。

五月十五日　月　晴　今日カラ平日ノ講堂ニナル。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ノ話ガアル。（中略）夜中央講堂ニクリスタス[10]ノ活動ヲ見ニ往ク。（中略）高野山カラ何カ書ケト原稿用紙ヲ送ッテ来タ。

五月十六日　火　半晴　講堂デ話ヲスル。反抗気分ヲ戒ム。キリストノ態度ハカナノ婚姻ニテ見エタリ。人ヲ嫌ハズ、人ノ為ス所ニ水ヲサヽズ、喜ンデ何人トモ何事トモ興味ヲモツ。但シ意見ヲ異ニシ論ズルコトアルハ無論ナリ。反抗気分ハ理ニ従フニアラズ、我ノ折レザルモノナリ。故ニ真理ト闘ヒ最後ハ死滅ナリ。ユダ是ナリ、天下ユダヲ弁護スル愚物アリ。二年生三四時トモ休ミデ五時間ニ帰リテ居ラズ。（後略）

五月十七日　水　晴　〈C・J・L・〉ベーツ氏話ス。（中略）活動ヲ一旦延期シ学生中心ニシテヤッタガ、アヤニク（ママ）停電ガ頻ニスルノデ困ッタラウ。箱木〈一郎〉外一人ノ学生尋ネテ来ル。

五月十八日　木　晴　松下〈績雄〉サン講堂デ話ス。宗教ハ智慧デハ分ラヌ。人間ノ智慧ハ小イモノデアルカラト誰デモ云フコトヂャガ其処ニ気ノツイタノハ悪クナイ。爾来ツマラン智慧デ宗教ヲ説明セウトスル態度ヲトラヌコトヂャ。午後学生会ノ新入学生歓迎会ガアッテ其後デ雄弁大会ヲヤルカラ来テクレヨト云フノデユク。然ルニ二十分デスマス筈ノ歓迎会ガ一時間モカヽッタノデ此後ノ切迫シタ時間デ懸賞雄弁大会ヲ開クコトニ反対シテカヘル。何処ニデモ我侭デ人ノコトハ構ハヌト云フ学院気分ガ見ラレル。後ニ聞ケバ歓迎会ヲ長クサセタノハ神崎〈驥一〉サンヂャト云フ。神崎〈驥一〉サンハ演説ノ方ニモ関係ガアル。悪意デハナイガ頭ガ足ラヌ。

五月十九日　金　晴　午後三度目ニ弁論大会ガ開ケタ。割合ニ恙ナク行ッタガ演説ハミナ貧弱デアッタ。其後学生会館デコーヒート菓子ヲ饗バレタ。昂奮シタノデタ食ガ進マズ夜全ク寝ラレナンダ。

五月二十日　土　晴　（前略）夜戯曲研究会[11]ノ公演デ往ク。国境ノ夜、父帰ル、一日ノ素盞嗚尊、全ク書生ノ遊ビゴトデアッタ。然シ遊ビゴト、シテハヨクヤッタ。

五月二十一日　日　晴　教会松下〈績雄〉氏。仏教ノコトヲ引イテ皆違ッタコトヲ云フ。午後岩橋〈武夫〉氏及其母親来訪。谷町盲唖学校ニ奉職ノコトヲ聞合セクレヨトノ話アリ。庭球リーグ戦、午後高商トヤッテ勝チ大悦ビヲシテ居タ。

五月二十二日　月　晴　〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉不在、河上〈丈太郎〉氏談スコトニナッテ居テ欠席、突然話ヲスル。近頃人間ノ自主ノ方面ヲ拡張シテ種々ニ云フガ、其一面人間ハ奴隷タルモノナリ。毛一筋ダニ白クシ黒クスルコトヲ得ザルモノナリ。キリストハ無益ノ奴ト云ヒタマヘリ。サレバ我等ノ光栄ハ我ガ作ルニアラズ与ヘラル、ナリ。我等ハ只勉ムルヲ以テ本分トスベシト云ヒテ過去ノ学院ト今日ノ学院トヲ比較シ、今ノ人ハ浮レテ居ル、春ハ浮レル、資格ノナキモノモ浮レサス、但シ浮レルモノ己ノ立場ヲ顧ミザルモノハ愚ナリ。冬来ラバ苦ム時ノ談ヲスル。午後大掃除。

五月二十四日　水　晴　〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏不在。チャペルデ話スト云ウタ仏人某来ラズ突然ノ話ヲスル。他校ニ勉強スルコトヲ云ヒ死力ヲ出シテ勉強スベキコトヲ諭ス。（後略）

五月二十五日　木　晴　礼拝ノ時間ニ出タガ肩ガ痛ンデ支度ガ六ヶ敷カッタノデ少シ後レタ。ソレカラ研究室デ講義ヲ書キ神学部ヲ済シテ帰ル、（後略）

五月二十六日　金　晴　雄弁会賞（五等）手塚〈一夫〉ガモラフ、（後略）

五月二十七日　土　晴　午後一時カラ雄弁大会[12]、往テ居タガ疲労ノ工合ガ悪イノデ途中カラ返ル。ブルヂョア、プロレタリアノ持切。高野ノ坊サン、貧者一灯ハ面白カッタガ、シマヒニ真言教理ニ引ツケタ辺ハ蛇足ヂャ。文学部ノ代表山本君ノハ古カッタ。

五月二十八日　日　曇　朝松下〈績雄〉氏内住ノ神ト云フ題デ不徹底ナ話ヲシタガ松本翁グード、ブリーチングト誉メテ居タ。（後略）

五月二十九日　月　晴　講堂デ〈H・G・〉バーネット氏ノ話ガアル。三時間目ノ休ミニ中学部ノ体操ヲ見ル。午後非常ナル疲労ガデブラ〳〵ト日ヲ送ル。（中略）夜明日作文ノコトヲ思出シタガ如何トモスル能ハズ明日ノ朝ノコトヽシテ寝ル。

五月三十日　火　曇　講堂ニテ話ヲスル。近頃宗教ニ心ヲ寄スル人ノ多ク起リシハ賀スベキモ智識的ニ求メントス

ルハ非ナリ、人ハ理性ヲ有スルガ故ニ之ヲ満足セシメズシテ信仰ヲ起サスコトハ不可能ナルガ如キモ、又一面ヨリ見レバ智識ハ浮動的ノモノニテ甚ダ覚束ナキモノナリ。基督教ハ権威ナリ。神ノ言ナリ。偉人ノ言ガ之ヲ読ムモノニシテ何トナク其人ノ心気ヲ伴フガ如ク、神ノ言ニハ神ノ力アリテ伴フ。吾人ハ之ヲ呼吸スベキノミ。故ニ又人ニ対シテモ吾人ノ言フ理屈ハ力ナシ。人ヲ動カスモノハ其人格ナリ、信仰ナリ、之ヲ得ルヲ勉メヨト話ス。午前作文ノ点ヲ取リテ忙シ、午後湯ニ行ク。

五月三十一日　水　雨　〈C・J・L・〉ベーツ氏話ス。交際費貯蓄残金十四円二十五銭、二年前ニ小澤〈濱〉氏カラ貰ウテ畑〈歓三〉氏ガモッテ居ラレタ。ソレヲ〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ニ回送サレテ又予ニ〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏カラ回送サル。ソレヲ当時在職ノ六人ニ分ケ一人前二円三十七銭五厘、岸波〈常蔵〉、河上〈丈太郎〉、佐藤〈清〉、畑〈歓三〉氏ニ渡シ、池田〈多助〉氏ニハ小為替ニシテ送ル。（後略）

六月三日　土　晴　聯合チャペルデ田中〈義弘〉ノオッサンガ話ス。理屈ハ言タイガ言フコトガ出来ンデ、実際此方ガイ、。（中略）夜社会学会[13]。長谷川如是閑、大山郁夫二氏ノ話ガアル。〈村上〉槇三聞ニ往ク。

六月七日　水　晴　朝散歩土谷〈旗太郎〉氏ト出クハシ青谷カラ一回リ同道ス。午後モ同ジ所ヲ散歩。帰リニ野球ノ練習ヲ見ル。沼田〈勇〉ニ叱ラレツ、外野デ飛廻ル小児ハ可愛想ナ気ガシタ。（後略）

六月九日　金　晴　今田〈恵〉氏ガ四時間ヲ休ンダノデB組ヲ待タセテ作文ヲ渡スノガヨクナイト思ウタカラ五時間目ヲ休ミニスル。（中略）朝チャペルデ何トカ云フ女西洋人ガ女工ノコトニ就イテ話シテ居ル所ヘ往ッタ。

六月十日　土　雨　チャペルデ花ノ祭ヲヤルトカ云ウテ中学部ノ生徒カラ花ヲ集メテ並ベテアッタ。讃美礼拝ト云フノデ三部ノモノガ歌ヲウタフ。甚ダ振ハン。孔子ガ斎ニ在ッテ韶ヲ聞キ三月肉ノ味ヲ忘レタト云フノハ其半面久シク平凡ナ声ヤ音デナヤマサレテ居タモノデアルト云フコトガ思ハレル。（後略）

六月十一日　日　晴　（前略）ソレカラハミル館ノ小児ノ日ニ往テ見ル。神学生デアラウ、下手ナお伽ヲヤッテ居タ。其後デ亀徳〈一男〉ノ奨励、要スルニ金ヲ出セト云フコト、済ンデ外ニ出ルト三戸〈吉太郎〉ガ此頃ハ皆ヨウ知ッテ何度デモ花ヲモテ来テ盛ニヤットル。今日デモ何ボデモヤットルト自分ノ手柄ノヤウニシテ言フ。而モ其ヤットルノハ何カ。（後略）

六月十二日　月　晴　朝チャペルデ談ス。先日ノ談ヲツギ宗教ハ理屈ヲ主トスルモノデハナイ。ソレハ体験的ノモノデアル。物ハ説明デ完全ニ分ルモノデナイ。味ハ嘗メテ見ル、音ハ聞イテ見ル。形アルモノハ目デ見テ始テ分明スル。真如ハ離言ヲ観ゼネバナラン。理屈ハ不徳ノモノガヨッテ立ツコトノ出来ル衣服ヤ化粧ノヤウナモノヂャ。途中ヲ歩クト立派ナ人バカリ、但シ其衣服ヲ剥ガタラ何如カ、不徳ナ宗教家ハ理屈ニヨッテ生存ヲ得ル。ソンナモノデアルカラ理屈バカリニ流レルト何時デモ弊害ニ流レル。希臘（ギリシア）教父等ノ間ニ三位一体ヤ基督ノ神性ト云フヤウナコトガ論ゼラレテ其ガ一ノ宗教ノヤウニナルト、非原罪ヤ非祈祷ノヤウナ考ガ出テ来タ。印度ガウパニシャッドノ後議論ニバカリ流レルト続命論者ノヤウナモノモ現ハレタ。宗教ヲ活カスモノハアウガスチンノ体験ガアル、釈迦ノ苦諦カラ入ル解脱デアル。基督教ハ罪諦ガモ少シ観ゼラレネバナラヌ。宗教ハ平素不要ノヤウデモ心ノ煩悶ニ落チタトキ止マルトマリ場デアル。ソレガ泥デアルカ盤石デアルカハ重大ナコトヂャ。実際ヨク観レバ宗教ハヨク分ル。真宗ハ仏教ノ最モ進ンダモノデアルガ其同行ノ態ハ果シテ文化ノ民トシテ満足セラレルカト云フヤウナコトヲハナス。三宅〈光華〉カラ真言宗ノ寺ヲ問ウテ来ル。（中略）晩ク出カケルト中学部ト香川商業ト野球ヲヤッテ居タ。八対一デ負ケタ。野球ノヤウナモノハ人間ガ賢クナルト弱クナル。高野山時報カラ原稿ノ礼状ガ来ル。（後略）

六月十三日　火　晴　〈村上〉謙介ノ百二十円ヲ貰フ。（後略）

六月十六日　木　晴　午後二時ヨリ高野山交換講演会、[14]中野教授（釈尊ノ仏教）松永教授（即身成仏史観）、其後中央食堂ニテ歓迎会、夜眠ラレズシテ困ル。

六月十七日　金　晴　午後一時ヨリ講演、学生三人（宗教的意向ノ転換、還滅説、認識主観トシテノ阿頼耶（あらやしき）識）松永教授仏身観、其ヨリ杏香楼ニ往キ支那料理ヲ食ウテ分レル。（後略）

六月十九日　月　晴　記事ナシ。（此週〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉他ノ用アリ、講堂ノ司会ヲ代ル。）

六月二十日　火　晴　午後加州大学トテニスアリ。吉田〈嘉壽夫〉、ベーツニ勝チ、小林〈了二〉ハコン〳〵ニ負ケ、渡辺〈耕治〉ゼンセンニ負ケ、複試合ハ日暮レテ中止（セットオール）。吉田〈嘉壽夫〉ノ試合ダケ見テ帰ル。床屋ニ往ク。[15]

六月二十三日　金　晴　アルプス講演会ト云フノガアル。往カズ。

六月二十五日　日　雨　ハミル館教会ヘ往ク。松下〈績

雄〉氏贖ノ教理ト云フ題デ説教。（後略）

六月二十六日　月　雨　講堂デ話ヲスル。〈H・G・〉バーネットノ詩集ヨリ談ヲ起シテ現在ニ住スルノ要ヲ説ク。頭痛ンデ二時間目ノ休ミヲ帰リテ寝、三時間三年ノ□困シカッタカ到々終ッテ帰リ寝ル。

六月二十七日　火　雨　今日モ学校ヨリ帰ッテ何モセズニ保養、読マレズ書カレズト云フノデ大ニ困ル。高野山ヨリ密教研究二十部送リ来ル。

六月二十九日　木　晴　朝鮮文化運動隊[16]ガ出掛ケルノデ三宮マデ送ル。午後寝タ。其後湯ニ往キ帰リテ作文ヲ見ル。（後略）

六月三十日　金　晴　（前略）礼拝時間〈H・G・〉バーネット氏留別ノ話ヲスル。中央食堂デ〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ノ午餐ニ饗バレル。〈H・G・〉バーネット送別ノ為ナリ。（後略）

七月一日　土　曇、雨　（前略）夜パウリスタニテ関西文学ノ集会アリシガ往カズ。〈村上〉謙介往ク。（後略）

七月五日　水　曇　朝起キルト昨夜ノ雨害ノ跡ヲ見ツ、大石川マデ行ク。関西〈学院〉ノ石垣ヲ第一トシテ（中略）午後物応〈虎之助〉ノ女ノ葬式ハミル館ニアリ、〈村上〉八重行ク。（後略）

七月七日　金　曇　（前略）小松一郎生ヨリ想苑[17]ノコトヲ尋ネテ来ル、（後略）

七月八日　土　雨　小松ノ所ヘ手紙書イテ出ス。（後略）

七月九日　日　雨　教会ハミル館、松下〈績雄〉サンノ説教、夜讃美礼拝、〈村上〉謙介、〈村上〉醇造行ク。真鍋〈由郎〉氏ニ大成運動金六月分（一、五〇）渡ス。

七月十一日　火　晴　午後三時ヨリ関〈西学院〉高〈等学部〉、〈神戸〉高商野球、六対三デマケル。投手ガワルイノデイカン。其他ハスベテ関高ガヨイ。（後略）

七月十四日　金　晴　（前略）午後ノ散歩ニ〈H・W・〉アウターブリッヂ氏ヲ見テ旅行団ノ帰リタルコトヲ知ル。夕刻油谷来訪。（後略）

七月十六日　日　曇晴　ハミル館松下〈績雄〉氏。午後河上〈丈太郎〉氏ヲ訪ネテ家ガナイノデ岸波〈常蔵〉氏ヲ訪ネル。今夜十時ノ汽車デ河上〈丈太郎〉氏帰神ノコトヲ聞キ夜電車デ新開地ヘ往キ徒歩三宮ニ出タガ見エンノデ県庁前カラ電車デカヘル。（後略）

七月十七日　月　晴　（前略）午前岩屋中西氏ニ河上〈丈太郎〉氏ヲ訪ネル。（後略）

七月十九日　水　晴　夕刻岸波〈常蔵〉ノ奥様見エ、岸波〈常蔵〉氏病気ノコトヲ聞ク。金五十円貸ス。

七月二十日　木　晴　朝総務部ヘ往キ小切手貰ウテ来ル。神崎〈驥一〉ニ逢フ。満州旅行ノコトヲ聞ク。

七月二十一日　金　晴　朝銀行ヘ往キ其ヨリ兵庫ヘ往キ富永〈亀吉〉ノ宅ニ悔ヲ云ウテカヘル。（中略）夕刻岸波〈常蔵〉ノ奥様見エ金ヲ返シバナヽ一房モラウ（一房デハナイ一カタマリ）。

七月二十三日　日　晴　夏見舞等ノ手紙ノ御無沙汰ニナリ居ルダケ返事書イテハミル館カラ帰リニ出シテ戻ル。加藤ガ一円札ヲ献金籃（今日ハ金ノ見エル籠デ集メタ）ヘ入レルト、講壇ニ立ッテ居タ松下〈績雄〉サンガ微笑シテ黙礼スル。此平籃ハ日曜学校ノ集金籃ト見エルガ甚ダ以テ気ノ知レタ手品師ノモノヽヤウヂャ。夜新開地ノ中ヲ通ッテ岸波〈常蔵〉サンヲ見舞ウテ来ル。

七月二十六日　水　曇　褥暑汗出テ止マズ。大石兵太郎消息不明ノ件ニツキ岸波〈常蔵〉氏ニ問ニ往ク。（後略）

八月二日　水　曇　（前略）夕刻大石〈兵太郎〉佐治〈三男〉他一名訪来、盗難ノ事情ヲ聞ク。

八月二十七日　日　晴　（前略）ハミル館ニ往ク。松下〈績雄〉ノ例ノ話興ナシ。（中略）大成運動六月分マデノ受取ヲ真鍋〈由郎〉氏カラ貰フ。

九月七日　木　曇雨　朝青谷ヲ廻ッテ来ル。文科ニ時間割ヲ写シニ行ク。（後略）

九月十一日　月　晴　学院始マル。三年生不在ニツキ業ヲ授ケズ。（後略）

九月十二日　火　晴　講堂デ古切支丹ノコトニ就テノ感ヲ話ス。午後ノ二年ヲ三時間ニ繰上ゲル。（後略）

九月十三日　水　晴　朝頭悪クナリ冷ヤス。学校ニ行キタルホカ何モ為ズシテ保養ス。四時頃カラ青谷ヲ廻ッテ来ル。アツシ。中学部ノ所ニテ林〈良吉〉氏ニ逢ヒ三隅氏ノ住所ヲ問フ。竹林〈拙三〉ヘ手紙ヲ出ス。夜熊内橋マデ散歩。

九月十四日　木　晴　午後三時ヨリ教師会議。小林ノ入学ヲ許可シ、箱木〈一郎〉ノ件〈H・F・〉ウヅ〈ウォーズ〉ニ預ケル。無試験検定試験許可ノコトヲ発議シ、予及今田〈恵〉、佐藤〈清〉、委員トナル。（後略）

九月十五日　金　晴　（前略）午後三時ヨリカナダ某氏ノ説教アリシガ忘レテ居テ行カズ。夜箱木〈一郎〉氏及魚釣研究ノ著者某氏来談。（後略）

九月十六日　土　晴　中央講堂デ話ヲスル。初秋ヲ迎フルノ感アリ。十二時半食堂ニテ畑〈歓三〉氏送別会。一円五十銭出シテ中食ヲ食フ。（後略）

九月十八日　月　晴　時間多キ日ナリ。帰リテヨリ作文ヲ添削ス。大ニ疲レテ中止ス。

九月二十日　水　曇　（前略）チャペルデ出席スベキコト、ソレニツケテ真面目ニ智識ノ素ヲ貯フベキコト、ヲ談ズ、（後略）

九月二十一日　木　晴　今日ハ涼シ。午後スクールカウンシルアリシガ作文ノ添削アルヲ以テ往カズ。朝頭鳴リ烈シク水ヲ運バントシテ□ニ倒レタルガ胃腸ノ方ノ工合ハヨシ。（後略）

九月二十三日　土　晴　頭悪ク首ヨリ上ノ薬ト後ニ解熱剤トヲ飲ンデ一時間ト二時間ヲヤル。三時間目ヲ休ンデ四時間ヲヤッテ帰ル。午後婦人会デ〈村上〉八重、曽木〈銀次郎〉氏宅ヘ往ク。今日ハ委員ナリ。（後略）

九月二十四日　日　晴　ハミル館ヘ行ク。松下〈績雄〉氏ノ説教、例ニ由テ例ノ如シ。（後略）

九月二十七日　水　晴　（前略）昼飯ヲ食フ所ヘ御影ノ高等特務萩原兼義ト云フ人露国寄付者ノコト聞ニ来ル。音楽会切符代三円柴野〈秀夫〉氏見エタレバ高梨ニ渡シテ貰フヤウ頼ミテ托ス。（中略）午後野球ノ練習ヲ見ニ。三輪〈竹男〉ガ投手ヲヤルラシイ。（後略）

九月二十九日　金　晴　夜ニ入リ北風吹キテ寒シ。〈村上〉槇三歳曲研究会ノ試演ヲ見ニ行ク。留守番シテ居タガ頭ガ痛ンデタマランノデ十時過ニ寝ル。

九月三十日　土　晴　神学生皆不在ニテ課ナシ。今日頭少シク悪シ。午後昼寝ス。其ヨリ眼鏡屋ニ行キ玉ヲ換ヘ（十五度）帰ル。夜戯曲研究会第二回ノ試演ニ行ク。〈村上〉八重ト〈村上〉醇造ト行ク。〈村上〉晴枝行カズ。（後略）

十月三日　火　晴　作文ノ準備デ頭ガ悪クナッタ。到底此仕方ハヤレヌト思ヒ次カラハ支那白話文ヲ此時間ニヤルト言渡シタ。午後寝テ又散歩シテ見ル。夜竹生島ヲウタフ。

十月四日　水　曇　午後三時ヨリ監督〈H・A・〉ボーズノ歓迎会アリテ中央食堂ニ集ル。伝道師ヤオモダッタ信者ノ集リデニタリ〳〵冷淡ゲナ眼ガキラツク。人数ホドノ椅子ガナイノデ幾部分ハ立ッテ居ルノデアル。予ハ椅子ニツイテ居タガ木下春〈三〉サンガ来タデ物ヲ言ヒニフト立ツト横カラ誰カ椅子ヲ占領シタノデ立ヅクメハ御免蒙ル、返ッテ来タ。（後略）

十月六日　金　曇　雨ニナッテ来タ。（中略）朝チャペルデ自己ノ信念ヲ形造レト云フ題ノ話ヲスル。神学部ガ伊勢ヘ旅行シテ休ミ。〈C・J・L・〉ベーツニ遭ヒニ行ク。（後略）

十月七日　土　雨　聯合チャペルデ神崎〈驥一〉君ガ話ス。日本人ハ余リアムビシャスデアルト云フノガ太平洋沿岸ニ於ル排日口実ノ一デアル。黒人ヤ白人労働者ハ主人ノ

言フ侭ニ従フガ日本人ハ甚ダ八ケマシイ。而シテ毛布包ヲ担ヒ歩イタ奴ガ何時ノ間ニカ数千弗ノ金ヲ溜メテ商売デモスルト云フト善イコトラシイガ、悪イノト見エテ、日本人ハ向上ノ心ハ強イガ其方法ヲ考ヘテ居ラヌ。キリスト曰ク頭タラント思フモノハ僕ノ如クナレデ、基督教モ向上ヲ教ヘヌノデハナイ。其手段トシテ己ヲ捨テサセルト例ノ奉仕ヘモッテ来ル。声ガヨケレバ賢ラサウニ聞エルガ此位面白イ話ハナカラウ。クラークノ Be Ambitious ハ有名ナ説教材ニナッテ居ル。キリストガ向上ノ手段トシテ僕ノ如クナラシメタト云フノハマルデ小児ノ解釈ヂャ。先日ノ日曜ニ松下〈績雄〉サンガ我ヲ見ヨト云フペテロノ言ヲ意味アリゲニイウタト好一対。（後略）

十月十日　火　晴　商科同窓会カラ頼マレテ三宮有吉写真会ニ撮影ニ往ク。時間割ガ変ッテ午後出ル。（後略）

十月十一日　水　晴　〈村上〉謙介ヲ〈関西〉学院ニ用イルコトニ決定シタト〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ヨル聞ク（後略）

十月十二日　木　晴　頭悪シ、試ニ奥歯ヲ脱シテ半日ヲ過シ其デ神学部ニ往ク、大ニ困ル。（後略）

十月十四日　土　曇　（前略）今日チャペル聯合セズ。ソレデ急ニ頼マレテ愛ガ安心、道徳ノ基礎タルト共ニ社会的発展ノ基礎タルコトヲハナス。

十月十五日　日　晴　ハミル館ヘ行ク。〈C・J・L・〉ベーツ氏説教。十字架ノ上ニナザレノ主イエス、キリストアル捨札ガ、ヘブル・希臘・羅甸デ書イテアッタノハ基督ガ其三国ニ王タルコト、即チ宗教、智識、芸術、政治ノ世界ニ王トナルノ証明デアッタト云フ。（後略）

十月十六日　月　曇　紀念日ノ式ヲ今日ヤルコトニナッテ中央講堂ニ集ル。久留島〈武彦〉ニ電報ヲ出シテアッタト云フガ来ンノデ松本〈益吉〉ガ話ス。（後略）

十月十七日　火　曇雨　関西運動会、門ノトコロノバラックニ山岳部ノ写真、文学部一年ノ教室デ弦月画会ガアル。其外所々ニポスターガ種々ト張出サレテアッテ又所々其間ニ紀念画ハガキヤ野球・蹴球ヤ活動ノ切符売リガ陣取テ居ル。成全寮ニ児童画ノ展覧会ガアッタガ往カナンダ。中学部ノ青年会画展覧、岡田行蔵ノ独舞台。運動会常ノ如シ。出方ガ遅イ。帰ッテすしヲ食ヒ、午後マタ行ク。仮粧行列ガ出テ居ッタ。小学校デハ西宮、中学校デハ〈神戸〉二中優勝ス。夜商科同窓会。中央講堂ノ食堂デ古イ人々ニ逢フ。岩崎〈愛二〉ト小山[18]トカ云フ人ガ手厳イ演説ヲヤッテ〈C・J・L・〉ベーツヤ神崎〈驥一〉ヲ青クシタ。

十月十八日　水　晴　運動会ノ翌日ズル〳〵ノ休ミ。続

禦ヲ失ウタ学校ノ常態。（中略）運動場デ野崎ノ運動会。

十月十九日　木　晴　吉岡〈美国〉サンガ休ミデ一年歴史午前ニ繰上ニナル。今日ハ神経ノ麻痺強ク困ル。帰宅後加藤医院ニ往キアンチベリベリンノ注射ヲシテモラフ。脳出血及麻痺性痴呆デハナイト聞イテ其方面ハ安心スル。（中略）加藤〈喜作〉氏[19]ヨリ帰ル道シンマイノ自転車ニ突当ラレ眼球（右）ト右腕トニ痛ミヲ受ク。活力素ヲ始メル。年寄トイヘバ老人気ニ入ラズ皺深ウシテケゞン顔スル講壇デ青年主義ヲアフリツヽ自分ハ心青年ヂャト云フ

十月二十一日　土　晴　今朝四時ニ目覚ム。身体ノ工合ヨシ。呼吸ヲヤリツヽ青谷マデ回ッテ来ル。授業ニ疲レズ。声出デザルノミ。（中略）夜野蹴球基金募集ノ音楽会アリ。

十月二十三日　月　晴　四時間連続ノ授業デ影響ヲ受ケナンダ、（後略）

十月二十四日　火　晴　（前略）午前欠席生徒ノコトニツキ相談ガアッテ往ク。其後腹加減少シ良クナイノデ大石川マデ歩ルク。午後教師会議。スンデカラ青谷ヲ廻ッテ来ル、（中略）今日カラ何モカモ赦シテ青谷公園ノ中ニ入ル。夜ハ（中略）関西ニ偽善者ノ活動ガアル筈デアッタガ電気故障ガ出来テ中止シタト。

十月二十六日　木　晴　今日天気ノ加減カ頭ノ工合悪シ。午後ソレニ教師ノ会アリテ晩クナル。（後略）

十月二十八日　土　晴　文学部三年神学部三年トモニ不在、ソレト知ラバ早ク帰ッタノデアラウガ十一時三十分マデハ待ッタ。（中略）夜ファカルチークラブ中村平三郎ノ米国カナダ視察談ト云フノデアッタガ何処デヨバレタ、何処デドンナコトガアッタト、マルデ自分一人ニシカ分ラヌ旅行ノ懐舊談、後ニ一ツ二ツ社会事業（肺病・家屋・衣服ノヤスク出来ルコト）ガアッタガ、聞イタゞケデハ視察ニナッテ居ラン。ヤッパリ頭ガナケレバ旅モ出来ヌラシイ。（後略）

十月三十一日　火　晴　九時ヨリ祝賀式。

十一月一日　水　晴　試験始マル。神学宗教ト二年国文ヲ試験スル。

十一月二日　木　曇　三年漢文ヲ試験スル、（後略）

十一月三日　金　晴　一年漢文ヲ試験スル。其前モ三宅〈光華〉氏ノ国文ヲ立番シタノデ大ニ疲レ午後徒然ト座シタマ、動カレズ。

十一月四日　土　晴　神学ノ一年試験ヲスル。

十一月六日　月　晴　試験一年ト二年トガアル。午後点ヲトリ夜瀧道マデ月ヲ見テ廻ル。

十一月七日　火　晴　忘レタ。朝〈H・F・〉ウヅ〈ウォーズ〉氏ニ急ニ頼マレテ聖書ヲ読ム。次ニ歌ヲ唱フ。ソレマ

デハ声ガアッタガ祈ニ頼マレテ半分ヘンカラ声ガ出ン。

十一月八日　水　曇雨　学院ヘ行ク。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏不在デ司会スル。其後腹ノ筋肉ガカタマッタヤウナノデ水道筋カラ大石川添ヒニ上リ変電所ヲ見テ五毛ニ下リテカヘル。気モチヨクナル。（後略）

十一月十二日　日　曇雨　関西学院教会ヘ行ク。ハミル館修繕中ニテ神学部ノチャペルデ開ク。（後略）

十一月十三日　月　晴　皇太子殿下午後四時神戸御着ト云フノデ諸学校行ク。（後略）

十一月十四日　火　晴　朝歴史教案ヲ書イテ行ク。三時間目ノ休ニ青谷ノ方ヲ廻ッテ見ル。（後略）

十一月十七日　金　晴　曽根川ト云フ人ニ部長室デ逢フ。今日ハ頭甚ダ良カッタガ午後一ツ二ツ面倒臭イコトガ有テソレカラ其事ガ気ニナリ、スルト又尋ネテ分ランモノガアルヤウデ頭ノ中ガ廻転シ出シタ。デ湯ニ入リ次デ例ノ三角道ヲ運動シテ見タガ治ラン。其結果一時位カラ目ガ覚メテ寝ズ、薬ヲ服シ種々ニシテ暫クシテ寝ル。

十一月十八日　土　晴　朝後レテ二年ヲ休ム。神学宗教モ印度ヲ終ル。（後略）

十一月十九日　日　晴　時後レテ〈関西〉学院教会ヘ往ク。松下〈績雄〉氏例ノ古来ノ神学ヲ排斥シテ基督ノ人格ヲ我裡ニ住ハシメル宗教ヲ説ク。極メテ不徹底ナモノヂャ。人々ニ昭ビルタメニ己ヲ下ゲル奴ガアル。然シ何デモ宜イ。キリストニ近イモノガ出来レバ其中ニ悔悟ノ日モ来ルデアラウ。（後略）

十一月二十日　月　晴　（前略）中央講堂デ商学会催シノ講演会ガアッテ〈村上〉楨三ヲ往カス（三十銭）。予ハ招待券ヲモラウタガ往カナンダ。

十一月二十一日　火　晴　朝チャペルデ話ヲスル。午後ノ作文ヲ休ンデ一王山ノ方ヲ遊ンデ来ル。作文ダケ当分休マウト思フ。夜モ熊内橋マデ往復スル。三ツ輪ヲ頓服シテ寝タガ近頃ニナクヨク寝タ。午後布哇大学ノ総長キーンスト云フ人ガ来テ中央講堂デ講演ヲヤリ、夜学校ト日米協会ト連合シテ歓迎晩餐ヲ食フト云フノデアッタガ失敬シタ。

十一月二十四日　金　晴　夕刻青谷方面ノ楓ヲ見ル。桜ノミ少シ遅キ趣アリ。陰鬱ハ見ズソレヨリモソレニ勝ツ神ノ力ヲヨロコバン。

十一月二十五日　土　晴　朝文学部ヘ往キテ見ル。神学部生徒居ラズ。一時ヨリ文学部献堂式（別ニ切抜ヲ取ル）、余詩篇二十四ヲ読ム。〈村上〉謙介同窓ヲ代表シテ祝辞ヲ述ベ、文学ハ個性ヲ以テ研究セザルベカラズ、模倣ハ死滅ナリ、無意味ナリト云ヒ、文学部ガ世ノ光、地ノ塩タル立

場アリ、研究セザレバ意義ナキヲ論ズ。二時半ヨリ吉野作造氏ノ話アリ、行カズ。畑原ノ方ヲ散歩ス。夜同窓モ来リ会食ス。感情立ツ。熊内橋マデ歩イテ来ル、（後略）

十一月二十六日　日　雨、朝ヨリ種々ニスレドモ睡ラズ、箪笥ニ倚リカヽッテ見ルニ寝ル気アリ、オキシヘーラーヲカケルト少シ睡ル、（後略）

十一月二十九日　水　晴　四時ヨリ目覚メ寝ラレズ。終日甚ダヨカラズ、夜再ビ二階ニ寝ル（午後松本〈益吉〉ヲ訪フ）夜甚ダ悪シ、祈祷シキリストノ御助ニ頼ルモノトナル。

十二月二日　土　晴　午後湯ト三角筋散歩。〈神戸〉高商ニテニスアリ、吉田〈嘉寿夫〉勝ツ。但シ知ラズ、見ザリキ、（後略）

十二月四日　月　曇　朝散歩シタルガ腹ガ悪キモノユヘ余リヨカラザルヲ感ズ。体温六度九分ヲ押シテ出タルガ、非常ニ寒ク、三時ト四時トノ間ニ帰宅シテ解熱剤ヲ服ス（高時七度二分）、午後八度ニ昇リタルヲ以テ床ニ就ク。学年暦委員会ヲ欠席ス。

十二月九日　土　晴　午後湯カラ帰ッテ学生ノ謡会ヲ聞キニ往キ紅葉狩一ツ残ッテ居タノヲ聞イテ帰ル。ソレカラ散歩ニ出カケルト途中〈O・A・〉ヂュークスニ逢ヒ籠池通マデ一緒ニ往キテ分レル。〈W・R・〉ランバスノ死ンダコトヲ話スト、若死ヂャ、予ハモウ五十年大丈夫百二十五歳マデ生キルト云ウテ居タ。夜（中略）文科ノ講堂ニモ小イ音楽会ヲ開イタ。熊内橋マデ例ノ如ク頭圧スヤウナノデ鎮静剤ヲ服ンデ寝ル。

十二月十一日　月　晴　（前略）午後上野氏来リ教師雇入ノコトヲ談ス。

十二月十二日　火　曇　朝青谷付近ニ水溜リガ皆氷ッテ地ハ一面ニ固クナッテ居タ。休ノ時間ニ田中〈義弘〉ヲ訪フ。午後教師会議アル筈ナリシガ柴野〈秀夫〉ガ不在デ書類ガ知レンデ止ム。（中略）曽根〈保〉等ノコトハ皆ニ聞イテ上野ヘ電話デ知ラセル。

十二月十五日　金　曇小雨、西北強シ　一時間目カラ業ガアル、昨夜ヨク眠レナンダノデカ耳ガ薩張リ聞エズ、午後教員無試験検定ノ委員ノ会議ガアル、馬鹿ガシャベッテソシテ決メテシマフノデ会議ニハナラヌ、（中略）〈村上〉槙三ハ五時ヨリ語学大会ノ試演ニ往ク。

十二月十六日　土　晴　午後七度四分熱ガアッタノデ何処ヘモ往カズ。（中略）〈村上〉八重、〈村上〉晴枝、〈村上〉醇造語学大会ヘ往キ〈村上〉槙三留守スル、（後略）

十二月二十日　水　晴　午後湯カラ帰ッテ畑原カラ五毛ニ出デ青谷ヘ廻ッテ帰ル。歩カヌト直グ悪イ。夜学院ノク

リスマス活動（何処ヘ往ク）ガアッテ〈村上〉醇造ヲツレテ往ク。

十二月二十一日　木　晴　午後ノ課業繰上ゲ午後金受取リニ総務部ヘ往キ農工銀行前デ真鍋〈由郎〉ノ預金払出証ガ落チテ居ルノヲ見テ拾ヒ、手紙ヲ書イテ東山病院ヘ送ラウトシテ居タトコロ、今朝帰宅ト聞、モッテ行テ奥サンニ渡ス。（後略）

十二月二十二日　金　晴　学校今日済ム、（中略）寿岳〈文章〉ヲ訪ウテ嵩〈龍純〉ノコト聞ク。

十二月二十三日　土　晴　朝一巡ヲヤル。六甲堂デ表紙買ヒ来リ午後製本、午後幼稚園クリスマス、夜ハミル館及教会クリスマス、留守番ヲスル

十二月三十一日　日　晴　ハミル館ヘ往ク、人居ラズ、帰ッテ来ル。後ニ聞ケバ集合ハ神学部ノ講堂デアッタト、一塊ノ石炭ガ神聖ノ儀式ヲ自由ニスル、（後略）

## 大正十二年

一月一日　月　晴レタレドモ寒シ　（中略）九時カラ学校ニ式ガアルト云フノデ往クト始マッタノハ三十五分、大正十二年ノ祝賀式ト云フノヂャゲナ。勅語以外ニハ国家ノ意味モ皇室ノ意味モ祈祷ニモ講演ニモ認メラレナンダ。矛盾ノ多イ誤解ノ多イ無識ヲ暴露シタ種々ノコトガアッテ、後デハ茶菓ノ新年立喰式ト云フノガアル、是デ家々ハ廻ラヌコトニスル、旧来ノ習慣ハ馬鹿ラシイ。此ウイフ人ガ催スカラ高等部ノ生徒ハ一人モ来ン、（後略）

一月七日　日　晴天暖ナリ　（前略）次ニ曽木〈銀次郎〉ノ娘サンガ来テ明日婦人会デ加藤サンガ鼓ヲ打ツカラ〈村上〉八重ニ地ヲ謡ウテクレヨト云フノデ八重大ハヅミ、湯カラ帰ッテ加藤サンヘ飛ンデ行ク。迚（とて）モ出来ント云ウタラ大ニ怒ッタ、オカゲデ寝ルノガ十一時ニナッタ

一月八日　月　曇午後雨トナル　今日ヨリ課業アリ、午後婦人会成全寮ニ於テ開カル。加藤夫人、〈村上〉八重連吟ノ羽衣、加藤夫人ノ仕舞、〈村上〉八重地ヲ謡フト云フ破天荒ノ芸当。（後略）

一月十日　水　晴レ西風寒イ　今日カラ研究室ヘ詰メテ見ル。声ノ工合少シハ増ナリ。午後源氏ノ講義ヲ苦シナガラニヤリツケル。（後略）

一月十一日　木　晴レ寒シ　研究室ヘ詰メテ見ル。然シ頭ガ押ヘラレルヤウニ悪クナッタノデ止メル。（後略）

一月十二日　金　曇リ午後小雨　朝課業ヲ間違ヘテ居テ源氏ヲ取リニ走ッテ帰ル。ソレガ為カ声ノ工合ヨク無カッタ。午後教師会議ガアッテ行カズ。湯モ夕暮ニスル。鉢木

ヲ謡ウテ見ル。夜室内運動デ寝ル。

一月十三日　土　午後曇リテ小雨ス　（前略）予モ頭ヨカラズ、学校カラ帰リテ火燵ニ居ル。鉢木ヲ唱フ、声出デタリ、（後略）

一月十五日　月　雨　今日声ノ出少シ良カリキ。午後作文ヲ見テ湯ニ行ク、（後略）

一月十八日　木　晴天暖カゲニ見エタガ割合ニ寒カッタ　吉岡〈美国〉ノ休デ午後ノ歴史ヲ繰上ゲル、（後略）

一月十九日　金　晴冷　四時間ノ課業デ頭ガ悪クナル、午後湯カラ帰ッテ熊内橋マデ往ク。其間ニ風ヲ引イタト見エ夜食後ハゲシイ咳嗽（がいそう）ニナル。（後略）

一月二十日　土　曇ッタリ晴レタリシタ　咽喉ガ痛ンデ頭ヲ巻イテ学校ヘ出タガチャペルガ長ク二時間目ハ潰レルト見タカラ帰ッテ養生スル。体温七度五分

一月二十二日　月　曇　イヤニ暖イ、学校ヘ出ル。声ガ出ヌ、午後又体温七度五分ニ昇ル（後略）

一月二十三日　火　小雨　文学舎デ二時間目ハヌケルト思ウテ四時間目カラ往ク。気分悪シ、午後ノ時間作文ノ題ヲ出シテオイテ帰ル。浦川〈源吾〉氏ノ下駄ヲ替ヘテ帰ル。（後略）

一月二十四日　水　曇リテ冷ナラントス　学校ヘ出タガ声出難シ（後略）

一月二十六日　金　晴寒イ　朝二時ニ永田ノ所ガ焼ケテ、〈村上〉八重其焼ケル音ヨリモ烈シイ声シテ来テ起シタノデ、汗ノ出テ居ル最中余儀ナク起キテ着換ヲスル。ソレカラ火炎ハ止ンデモ寒クテ寝ラレズ下ニ居リ、火燵デ夜ノ明ケルヲ待ツ。小暖イ中ニ一寸焼ケ跡ノ方ヲ廻ッテ見ル。マダポンプデ余燼ヲ消シテ居タトコロナリ、朝食ノ間気持甚ダ悪ク学校ヲ休ム。体温朝四度八分、正午食後五度六分、夕刻始テ六度五分ニ上ル、鎮静剤ヲ服シテ八時ニ寝ル

一月二十七日　土　晴レテヨキ日少シ寒ミニ廻ル　今日モ学校ニ出ズ、歴史ノ講義ノ準備ヲスル、（後略）

一月二十九日　月　曇　学校ヘ出ル積リデ居タガ、ソコヘチャペルノ話ヲシテ司会ヲシテクレト伝言ガアリ、〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ハ中学部ヘ往クト云フノデ大ニ困ル。話ハセヌ、課業モ声出ズシテ困ル。午後湯カラ帰ッテ少シ睡ッタ、夜モ早ク寝タ。

一月三十一日　水　晴　昨夜不眠ノ結果ト見エテ頭悪シ、作文ヲ見ル、ソレガ又気ニ障ッタノデカ神経興奮ス、午後青谷カラ雲内ノ方散歩シテ帰ル、（後略）

二月一日　木　晴　学校ヘ出タガ声ガ出ヌノデ神学部ヲ中止シテ帰リ午後一年ノ歴史ヲ休ム。午後試ニ道明寺ヲ謡

ウテ見ルト一枚シカ声ガ無イ、（後略）

二月二日　金　晴涼シ　学校ヘ出タガ声ガ出ヌノデB一年ノ作文ト別科一年ノ宗教トヲ何如カ斯ウカスマセテ帰ル。午後道明寺ヲ試スト二枚謡ヘタ、（後略）

二月三日　土　曇冷　学校ヲ休ンデ〈村上〉八重ト共ニ加藤医ニ往ク、気管支カタルガ起ッテ前ニモ出来テ居ルトノコト。小便ノ検査ヲシテ貰ウタガ蛋白モ糖モ無イ、腎臓ノ方ハ異状ナシ、催眠薬三包モラフ、夜ヨク寝ル。

二月五日　月　晴　襟巻シテ学校ヘ出ル。割合ニ疲レズ、午後睡ル、起キタ所ヘ野村直壮ノ義兄大阪新報記者小川美代治ト云フ人来リ暫ク談話ス、（中略）其等ノタメニヤ夜熟睡セズ。

二月六日　火　晴午後曇ル　学校ニ出タガ頭非常ニ悪シ、三時間ノ休ニ中学部ノ辺マデ運動シテ見タガ益ナシ。神学別科ノ人ニ題ヲ与ヘ四時間目ノBヲ済シ午後ハ休ニシテ帰ル。熱七度二分アリ。頭ヲ冷シテ二階ニ籠ル、夜ヨリ三輪結核錠ヲ服ス、（後略）

二月七日　水　雨　二階ニ籠リテ日ヲ暮ス、体温六度六分ヨリ上ラズ、（後略）

二月八日　木　晴　午後曇リテ小雪ヲ降ラス、（中略）今日モ休マセテ貰ヒテ午後オキシヘーラーヲ試ムルニ非常ニ快キ様ナリ。

二月九日　金　晴　学校ニ出ル、割合ニ声ガ出タ、午後ノ作文ヲ休ミ髪ヲ剪リ湯ニ往キオキシヘーラーヲカケル。今日モヨイヤウデアッタガ昨日ホド効カヌラシイ。場所ノ関係デアラウ。毎日身体ノコトダケ書イテ居ルガ思想ハ無限ニ浮ンデ来ル、多少目ニ入ッテ思ヲ動カスノモ無イデハナイ、但シソレヲ此ニ書キ入レル力ガナイ、皆流シ去ラシムルノヂャ。

二月十日　土　晴但シ寒カッタ　三組トモ授業ハ了ッタガ声ノ出ガ昨日ヨリ悪カッタ、神学部ノ宗教了ル。初カラ困ッテ終マデ困ッタ。（中略）啓明寮カラ来ル火曜日卒業生送別ノ会ヲスルト云フノデ案内ヲ貰ウタ。

二月十一日　日　晴暖　九時カラ礼拝合併ノ紀元節祝賀ニ行ク。松本〈益吉〉ガ生命モナイ西洋ノ話ヲシタ。（中略）又午後小野サンガ来テ商科ト文科ノ希望ト云フ写真ヲ撮ル、（後略）

二月十二日　月　晴暖　学校ヘ出ル、声ノ工合大ニ好シ。（後略）

二月十三日　火　小雨　文学会ノ総会ヲ開イタノデ二時間ノ業ガヌケル。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉東京ヘ往キ総務部カラ明日休校ノコトヲ通ジテ来タノデチャペルノ

時間ニ引出サレル。教員室ハイヤナ所ヂャ、ソレデ四時間ノ始マデ待ツ。午後作文ヲヤラズ、AトBニ学院気風ノ悪クナルコト、試験ノ厳重ナルベキコトヲ知ラセル。高崎要ヨリ再入学ノコトヲ聞ニ来テ許スベキ旨返事スル。岡、高畠除名取消ノ手続ヲシテヤル。（後略）

二月十四日　水　曇リテ小雨　朝晏(おそ)ク起キル。伏見宮殿下ノ葬儀デ学校ガ休ミ。午後小林政一(ママ)[20]生話シニ来ル、支那時文ガヤリタイト云フ。支那ノ歴史ナド種々問フ。（後略）

二月十五日　木　曇　学校ヘ出タガ今朝一時カラ眠ラレナンダ、メ声ガ出ニクカッタガ無事ニヤレタ。（後略）

二月十六日　金　雨暖　（前略）学校デ突然チャペルノ話ヲスル。世ハ進化スルト云フガ其中ニ居ルモノカラ言フト常ニ墜落ノ感ヲモタセラレル。澆季(ぎょうき)ト云フノガソレヂャ。ソレデ我々ハ今日ノ社会ニ居テ常ニ癪ニ障ルモノヲ見セツケラレルガ、此ニ我々ノ忘ルベカラザルコトハ、如何ナル人ニモ善意ヲ以テ交ルコトヂャ。其善意ハ彼ヲ得ルカ然ラザレバ光栄トナッテ我上ニ帰ルト云フ趣意、路[21]十章ニ由リテハナス。（後略）

二月十八日　日　晴　朝東部教会[22]ニ往ク、（中略）帰路古イ中学部卒業生ニ逢ヒ名ヲ曰レナンダ、問フノモ忘レタガ其人ハヨク知ッテ居ル。古イ人ノ物言フコトハヨシ。（後略）

二月十九日　月　雨　中夜不眠ニ落チタ、メカ、学校ヘ出テ見ルト全ク声ガ出ン。三年ノ業ヲ短ク切上ゲテ帰ル。前途ノコトニ就テ種々考ヘル。其ガ為カ夜十一時ヨリ又目覚メタリ。（後略）

二月二十一日　水　晴午後曇　四時間目ノ終ニ卒業生ガ写真ヲ撮ルノニ加ハリ帰ッテ飯食ベテ学校ニ往クト二年生ハ帰ッテ居タ。（後略）

二月二十二日　木　晴　（前略）午前神学部ヘ往ク前ニ中学部ヘ往キ田中〈義弘〉君ニ逢ウテ〈村上〉謙介ノ月俸ノコトナド聞ク。他ヘ往ケバ多ク呉レヨウガ他ノ大学卒業生ノ振合モアルコトデ神崎〈驥一〉君トモ相談シテ一一五、〇〇ニ予算ヲ組ンダ。猶今後ノコトハ僕等ニ任セテクレヨトデアッタ。感謝スル。他ノ誰ガ幾円貰フカ、ソンナコトハ総テ知ラヌ。

二月二十三日　金　晴　朝ノ課業声ガ出ンデ学生ニ読ンデ貰ウテ講義スル。午後オキシヘーラーヲ掛ケル。声ハ到底出ヌモノデアラウカト思ウテ東北ヲ謡ウテ見ルト割合ニヨク出タ。甘ゲナ声ガスルノハ〈村上〉晴枝モ〈神戸〉女学院ニ入タ年風ノ後久シイ問然デアッタト、〈村上〉八重ガ云フ。サレバ声ハ出ルデアラウガ年ハ寄ル、前途ノ使命

ノコトニツキ種々考ヘル。ソレガ為カ十二時カラ四時マデ全ク目ガ覚メタ。其カラ六時マデ寝タ。然シソレデ大ニ神ノ御旨ノアル所ヲ解シ決定スル所ガアッタ。

二月二十四日　土　晴　シニア・デーデ休トナル。十時カラ式ガアルト云フノデ少シ後レテ行テミルト、丁度其時始ッタ。文学部ノ生徒ハ多分居ナカッタラウ。学生ノ聖書祈祷。随分長々ト有之、外橋(23)夫人ノ歌、神崎〈驥一〉君ノ話ガ殆ド済ム所デ帰ル。（スシト蒸菓子ヲ貰フ）十二時半平和楼デ(24)山田耕作ノ歓迎会ガアルノデ往ク。古キ同窓ニ少シ会フ、（後略）

二月二十五日　日　晴　朝オソク起キル。久々デ〈関西〉学院教会ヘ往クト中学部生徒何名、高等部生徒モ一二人洗礼ヲ受ケル。次デ晩餐式、教職ガ杯ヲ頂イタアトデ例ノ安心ノ勧メヲヤッタノハ〈C・J・L・〉ベーツノ出損ヒデアラウガ、其処ニナホ其気分ガ見ラレル。（後略）

二月二十七日　火　晴冷雪チラツク　（前略）Bノ漢文ノ時間声ガ出ンデ中止、コレデ課業ヲ止メルト云フタ。午後教師会議ニ出ル。今日ハカルモチンヲ服ンダ、メカ頭大ニ軽カリキ。（後略）

二月二十八日　水　晴午後曇寒シ　声デズ、一年ノ漢文今日デ止メル。午後二年ノ国文ヲ休ム、（後略）

三月二日　金　晴暖　（前略）二年出席ナシ。講堂デイエス殿潔メニ就テノ談ヲスル。殿堂ヲ潔ムルハ神ニ対スル義務ト云フバカリデナイ。転ジテ吾人ノ益トナル。吾人ハ神ヲホムルトモ汚レタル殿宇ニ神ハ在ラズト云フコトニツキ学校内ヨリ其気分ヲ駆出スベキコトヲ話ス。学生ハ教師ヤ生徒ノ外ニ最モ力アルモノヲ有ス。是即チ其気分ナリト云フコトヲ話ス。午後熊内橋ヲ廻リテ来ル。神学生ノ感謝会ト云フモノアリテ往ク。会場閉ヂ入ルベカラザルヲ以テ帰ル。夜〈村上〉八重ト共ニ〈J・C・C・〉ニュートン氏ニ招カレ晩餐ヲタベル。相客吉岡二人。

三月三日　土　晴　朝青谷ヲ廻ル。課業ナシ、四時間ノ終ニ於テメダルノ相談アリ。大石〈兵太郎〉ト、寿岳〈文章〉、曽根〈保〉三人ニ賞品ヲ与ヘメダルハ与ヘヌコトニスル。午後税関ノ高橋登ト云フ人ガ訪ネテ見エルト云フテ、吉崎〈彦一〉サンカラ頼マレタ、メニ、四時頃マデ待ッテ湯ニ行クト其留守ヘ来タ。何トカ会ト云フモノガアッテ、ソコデ漢学ノ思想等ニ就キ毎月一回話シテクレト云フノデアッタガ辞ル。〈村上〉謙介ニ作文ヲ見テ貰フタノデ大ニ助ッタ。

三月四日　日　晴　卒業説教、礼拝ガ午後二時カラアルノデソレニ往ク。初ニ讃美礼拝、種々ノ歌ガアッタガ西洋人ノ英語ガ声ガヨイト云フホカ面白イノガナイ。但シ歌ノ

善悪デナイ、礼拝ノ気分ト云フモノガ認メラレヌ。説教ハ〈J・C・〉ニュートン翁、タイプライターデ十幾枚打ッタヤツヲ読ンダ。間ニ註釈ヲ加ヘナンダヾケ短イ。

三月五日　月　晴　卒業式朝九時カラ壇上ニ登ラサレル。田村新吉ノ話ハ平凡、ナゼ実業界ノ大勢デモ話サヌカ。夜六時ヨリ明海ビルヂングデ商科同窓会[25]、招カレタデ行ク。明石町トアッタノヲ考ヘ損ジテ辞クヲ出シタガ大笑ヒ。

三月六日　火　晴、昨夜十時ニ寝ル。今朝三時頃畑原ニ火事ガアッテ鐘デ目ヲサマサレ遂ニ寝ラレズ、夜ガ明ケテ後又東新開地ガ八十何戸焼ケル。学校ノ地理ヲ済シテカヘリ右二ヶ所ヲ廻リテ見ル。午後作文ヲ見ル。湯ニ往カズ、早ク寝ル、〈午睡モシタ〉

三月七日　水　曇　礼拝時間ニ学校へ出ル。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏不在ナリシタメ試験ノ注意ヲスル。課業ハ今日マデヾアル。生徒ニ作文ヲ返ス。〈後略〉

三月八日　木　曇　朝試験問題ヲ持ッテ学校ニ往ク。一年生来テ居レリ。課業終ル報知ガ無カッタ、メナリ。午後図書刊行会ヨリ万葉集古義ノ催促来リシタメ学校ニ行キテ芝野〈真三〉氏ニ尋ネルト未ダ送ラズトノコトヲ聞ク。

三月九日　金　曇　午前総務部ニ往キ三宅〈嘉策〉氏ニ優等卒業者ノ姓名ヲ知ラス。文学部ニモ一寸覗ク。午後二時ヨリ教師会議、夕刻マデカヽル。ソレデ運動不可ナノデ夜十時ニ寝テ三時ニ覚メ五時マデ眠ラズ、カルモチンヲ服シテ六時過マデ寝ル。図書刊行会へ端書ヲ出ス。〈後略〉

三月十二日　月　晴　試験始マリテ二時間目ノ立番モシタ。昨夜ノ不眠デ頭ガ茫トシテ居ル。午後昼寝スル。熱七度一分ヨリ上ラナンダ。〈後略〉

三月十三日　火　晴　昨夜ハヨク寝タ。午前チャペルノ司会ヲシタガ、立番ハナカッタ。〈後略〉

三月十四日　水　晴　マタ寒クナッタ、ソレデお水取ノ噂ガ出タ。今日一年漢文ノ試験ヲスル。午後ボツ〳〵ト採点スル、〈後略〉

三月十五日　木　晴　今日モ二年国文ト一年歴史ノ試験、昨日ノ残リヲ採点シテマダスマヌ。〈後略〉

三月十六日　金　晴　三年ノ漢文ト神学部ノ国文トガ同時間ニアリ、其他二組ホド立番ノ人ガ来ンノデ大弱リシタ、午後ハ採点。

三月十七日　土　晴　二年漢文ノ試験、午後採点スル。ホカ湯ニ往ッタキリ。

三月十八日　日　雨　〈関西〉学院教会へ行ク。松平(ママ)氏ノ話。〈後略〉

三月十九日　月　雨　朝学院へ出テ見ルト礼拝ノ役ト一

年試験ノ立番ガ当ッタ。（後略）

三月二十一日　水　晴　午前学校ヘ往ク。午後発熱七度八分マデ、夜ニ入ッテ教務ノ大仕事出来、十時半マデカヽル。カルモチンヲ服ンデ寝タガ度々目ガ覚メ四時カラハ全ク睡ラズ。

三月二十二日　木　晴　午前九時ヨリ教師会議、時間中ヨリ寒ケヲ感ジ帰ルト高熱九度何分マデ上リ、中食ハ絶食、三ツ輪ノ解熱剤六顆服ムト夕刻ニハ浮カミ流サレルホド汗ガ出タ。柳瀬試験ノ結果ヲ聞キニ来ル、答ヘズ。

三月二十四日　土　晴　（前略）床ヲ離レテ下ニ居ル。午後七度三分マデ熱出ル。頭ノ工合未ダ快カラザル所アリ。落第者ガ何人モ来テ困ル。

三月二十六日　月　晴　（前略）午前総務部カラ銀行ニ行ク。午後馬淵〈得三郎〉サン訪ネテ見エル。小野善雄ノ推薦書来リ学院〈柴野〈秀夫〉サンニ〉廻ハス。飯泉寛、中山宏ト云フ二人神学部ニ来ルトアリ。鐸木俊二ヨリモ書面来ル。

三月二十九日　木　晴　中学部試験始マル。其様子ヲ見テ文学部ニ往キ問題ヲ交シテカヘル。（中略）鐸木俊二ヘモ手紙ノ返事ヲ書イテヤル。

四月一日　日　晴　（前略）礼拝文学部ノ講堂デアッタ。松下〈績雄〉止メテ柳原〈正義〉ニカハルト報告ガアッタ。（中略）□□生来リ贈物ヲ貰ツタ。大ニ困ルガ仕方ガナイ。落第ハ動カヌゾト云ヒ渡シタ。

四月二日　月　試験準備ノ用事アリテ度々学校ヘ出テ見ル。（後略）

四月四日　水　晴後曇ル　文学部入学試験始マル。中学部入学式アリテ〈村上〉謙介午後行ク。

四月五日　木　晴レズ雨落ツ　昨日ニ続イテ入学試験、午後ハ口頭試問。（後略）

四月六日　金　曇時々晴　朝カラ成績ヲ整理シ午後ニ時ヨリ教師会議。其後張リ出シヲ済シテ帰ル。十時ニ床ニ就ク。

四月七日　土　晴　昨日ノ疲レニテ身体泥ノ如シ。（後略）

四月八日　日　晴　松下〈績雄〉サン最後ノ説教大分アガッテ居タ。（後略）

四月九日　月　晴　（前略）中学部平和楼ノ集会ガアッテ〈村上〉謙介行ク。

四月十日　火　晴　例ノ如ク朝散歩シタ。其カラ一年ノ組分ケヲ造リテ柴野〈秀夫〉氏ニ渡シ佐藤〈清〉氏ヲ訪フ。（後略）

四月十一日　水　晴　始業式デ学校ニ出ル。ゴテ〳〵シ

タ事務ガアッテ頭ガ悪クナッタ。教務ヲ止メルコトヲ言ウタ。（後略）

四月十二日　木　曇　二年ニ漢文ヲ教ヘル。声ノ工合余リヨクナイ。（後略）

四月十三日　金　曇寒シ　朝摩耶山上雪アリ。一時間ニ二年ノ国文ヲヤリ、二時間帰ッテ礼拝ノ時間ニ聖書ト祈祷ス。佐藤〈清〉[26]氏分レノ談アリ。夜送別会歓迎会ニ中央食堂ニ行ク。（後略）

四月十四日　土　晴　二年ノ漢文声ガ出ンノデ困ッタ。午後二時入学式、続イテ補欠ニ入学ノ許可ヲ出スコトマデ差図シテ帰ル。種々心ニ協ハヌコトガアルガ〈H・F・ウヅ〉〈ウォース〉ガ教務ヲ止メテハ困ルト云フノデ一寸迷フ。但シ一切ノ責任ヲ離レテ是カラハ自由ニ保養シタイト思フ。夜三ツ輪〈相生町〉デ同窓会催シノ佐藤〈清〉氏送別会ガアッテ行ク。遅クナッテ帰ッテ寝タノハ十二時ニナッタ。ソレデ又三時カラ目ガ覚メテ寝ラレナンダ。

四月十六日　月　晴　朝補欠ガ来ルニ柴野〈秀夫〉ハ出テ居ラズ、一年ノ課業ハアルト云フノデ非常ニ困ル。兎ニ角補欠ヲチャペルニ集メテ重要ナコトダケ言聞カセ、後レテ来タモノハ後デ別々ニ言聞セルコトニスル。二時間メニ河上〈丈太郎〉サン来テ補欠ヲ集メテ云々ノ話ガアッタガ遅カッタ。一年Aノ授業只漢文ニ就テノ心得ヲ言聞セテ止メル。其短イ話ガ聞苦シク声ガ出ズ、頭ガシビレタタメ物笑セノヤウニナッタ。学生ハ予ガ何ヲ話シタカ知ラナンダ〈声ノ方ニ気ガ取ラレテ〉、而シテ予ガ教室ヲ出ルトキ大笑ヲシタ。無理ハナイ。彼等ハ予ガ誰デアルカ全ク知ランモノデアルカラデアル。二年ト三年ハ時間割変更ヲ知ラナンダタメ課業ガ出来ナンダ。（後略）

四月十八日　水　晴　朝腹ノ固マッタ所ヘイヒチオールヲ塗リ青谷ヲ一巡シテカヘル。今日ハ朝二年ノ国語、四五時ニ一年ノBAトツヾイテ困難ナ時間割デアッタガ腹ノ固マリガ和ライデ居タノデ角力トル程ノ力ヲ出シテドウカ斯ウカヤリツケル。但シ其次ニ神学ノ宗教ガアッタノデコレハ出来ンデ時間割ヲ変ヘテ貰フ。（後略）

四月十九日　木　曇　気候非常ニ悪ク諸病復活セントス。午前湯ニ往キ帰リテ身動ケヌ侭(ママ)筈ニ凭(もた)レテオキシヘーラーヲ掛ケル。一時学校ヘ出ルト貰ウタ時間表ノ誤ニテ課業ナシニ帰ル。（後略）

四月二十日　金　晴　一時間目ヲスマシ二時間ノ終ニ往ク。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉不在ニテ礼拝ノ司会ヲシタガ三時間目ハ又時間表ノ誤ニテ休トナル。ソレデ運動シテ一時間ヲスゴシ四時間ヲ了リテカヘル。午後熊内方面

ヲ散歩ス。増井〈光蔵〉氏ニ逢フ。池崎徳治（香川県観音寺町電話二〇）瀧山晴太郎両氏挨拶ニ来リ松魚ト千代ノ栄ト云フ銘茶ヲ貰フ。

四月二十一日　土　雨　四時間ニ神学ガアッテ行クト、〈J・C・C・〉ニュートンノ最後ノ話ガ長クナッテ課業ガ出来ヌノデ帰ル、（後略）

四月二十二日　日　曇　中央講堂礼拝ニ行ク。松本〈益吉〉氏イエスノ宗教ト題シテ話シテ居タ。（後略）

四月二十五日　水　小雨　朝一時間ノ課業割合ニ声ガ出ン。チャペルノ話ヲ頼マレテスル。午後ハ恐レタヨリモヨイ声ガ出タ。（後略）

四月二十六日　木　晴　午後会計ニ至リ金ヲ受取ルニ今月ヨリ増額シタルヲ見テ感謝ス。〈村上〉謙介モ文学部ヨリ二十円貰フコト、見エタリ、（後略）

四月二十八日　土　小雨　気分悪キヲ押シテ登校ス。午後一時ヨリ日夏某ト云フ人ノ詩ニ就テト云フ話ガアッテ見ニ往ク。途中ヨリ帰ル。〈村上〉謙介青年会ノ代表トシテ京都ニ往ク。（後略）

四月二十九日　日　晴　礼拝説教河上〈丈太郎〉氏、其後ニ親睦会ガアッタガ帰ル。（中略）寝テカラ〈村上〉謙介帰ル。

四月三十日　月　晴　声ノ出方稍ヨシ、午後三時ヨリ米国海軍高等部ト野球ノ試合アリテ行ク。力互角シテ終マデ面白キ取合ヲヤレリ。十一対八ニテ勝ツ。（中略）佐藤清氏ヨリ端書ヲ貰ウタ。

五月二日　水　晴　（前略）学院ニ山田耕作ノ談アリシガ往カズ。中学部ニ諸学部ノ会アリテ〈村上〉謙介遅ク帰ル。

五月五日　土　晴　（前略）板宿ニ神戸新聞社ノ野球ガアッテ〈村上〉謙介往ク。〈関西学院〉中学部ト甲陽〈中学〉七対一ニテ勝ツ。（後略）

五月六日　日　曇後雨　礼拝松本〈益吉〉氏説教、午後湯ニ往ク。今日ハ須磨ニ角力アリシガ雨降リ出シテ中止トナル。（後略）

五月七日　月　雨　梅雨ノヤウナ降方デアル。声余程楽ニナッタ。（後略）

五月八日　火　雨　教役者会ノ会食ヘ往クト云フ手紙ハ出シテ置イタガ学校ノ課業ガ都合ツカヌノデ止メタ。（後略）

五月九日　水　晴　時間ノ多イ日、（中略）京都高等工芸トテニスガアッタ。原田ノ祭デ騒イデ居ル。共ニ見ニユカナンダ。

五月十日　木　晴　礼拝時間ニ多田ト云フ人ノ話ヲ聞キ

ニ行ク。今日ハ頻ニ脳貧血ノ気持ガシテ油断ガナラヌ。卵ヤパンヲ食ウテ四時間ニ出テ来ル。（後略）

五月十二日　土　晴　四時間ノ後食堂デファカルチー・クラブノ会合アリ。高知ノ多田ト云フ人、松江ノ永野ト云フ人ヲ歓迎ス。一円出シ。二時ニ大町ガ来ルコトニナッテ居ルノデ中途デカヘル。所ガ大町サン四時過ニ来テ三時間近ク按ンダノデ同窓会ノ六時ニ集ルノガ後レテ七時ニナル。ソレカラ支那料理。少シ早ク帰ッテ寝タガ矢張リ寝ラレナンダ、通計二時間位睡ッタ。

五月十三日　日　晴　（前略）〈村上〉謙介須磨ニ往ク。角力[27]高商ノ親玉毎年ノ優勝者ヲ三人前ニ倒シテ後ハ関西〈学院〉ノ一人舞台。

五月十四日　月　晴　吉岡〈美国〉サン三時間目ニ休ンデ四時間休ミニナル。（中略）午後船（〈J・C・C・〉ニュートンノ乗ル）ノコト聞クノデ大分歩ク。（後略）

五月十五日　火　晴　プレジデント・リンコルントト云フ船デ〈J・C・C・〉ニュートン翁[28]帰ラレルノデ第二突堤へ送リニ行ク。〈村上〉八重モ別ニ往ッタ。其後学校休ミニナル。（後略）

五月十九日　土　晴、朝チャペルデ山室軍平氏ノ談。聖書カラ数節ヲ抜イテ青年ノ心得ヲ話ス。午後〈大阪〉医大トノ剣道試合。鳥取〈中学〉＝関〈西学院〉中〈学部〉ノ野球ヲ見ル。（後略）

関〇〇〇一〇一三〇A
　一二三四五六七八九
鳥〇〇〇〇〇〇一〇一
（医大）　（学院）
浅利　青木
弓場　小野
藤井　藤井
有延　杉本
金佐　宮谷
奥　田中
石川　赤木
永谷　佐治
辻本　脇田
園田　織田◎

五月二十日　日　曇　松本〈益吉〉ノ説教ヲ聞ク。（後略）

五月二十一日　月　雨　午後ハオリンピック[29]ノ休ト云フノデアッタガ雨デ中止。明日モ雨降ラバ休ミデナイト云フコトヂャガ、是ハ無意味デアラウ。（後略）

五月二十二日　火　曇　学院ハ臨時休時、（中略）オリ

ンピック|ノ掲示場ヲ覗イテ見タ。（後略）

五月二十四日　木　曇　B組ノ授業ニ困難シタ。声ガ出ズ物ガ言ニクシ。ソレカラ運動ヲヤリ礼拝ニ出、三時間ヲ教員室ニ過シテA組ヲスマセテ来ル。コレハ少シ楽デアッタ。午後湯ニ往キ帰ッテ寝タガスグニ目ガ覚メル。（後略）

五月二十五日　金　曇霽レ天気トナル　中学部オリンピック|ト山トニ分レテ往ク。〈村上〉謙介山行キ。朝運動シテ礼拝ニ出テ金ヲ貰ウテ帰ル。（後略）

五月二十七日　日　曇　曽木〈銀次郎〉氏ノ説教ヲ聞ク。午後熊内マデ散歩ス。

五月三十日　水　曇小雨　（前略）今日ハ声出ズ、頭悪シ。チャペル|ノ話モアリ（取ラザル心）大ニ困ル。六時間ノ宗教ハ中止シテ帰ル。（後略）

六月一日　金　晴　（前略）夜電気ガ消エ中央講堂デヤル英語大会ハワヤデアッタラウ。（後略）

六月二日　土　晴　声ガ甚ダ出ズ大ニ困ル。全国雄弁大会(30)ガ有ッタノデ午後三人ホド聞イテ、（後略）

六月三日　日　晴　亀徳〈一男〉サンノ説教ヲ聞ク。（後略）

六月十日　日　晴　松本〈益吉〉氏ノ説教　要点不明。（後略）

六月十二日　火　晴　二時カラ高野山交換講演会ガアッタガ教師会議モ同時ニ有ッタノデ清地ト云フ学生ノ密教思想ノ起源ニ就イテト云フノハ聞カヌ。後デ聞ケバ波羅門ニ在リト云ウタモノラシイ。次ノ竹内ト云フ学生ノ原始仏教ニ於ケル自我ノ問題ヲ半分ホド聞ク。学生ヂャカラ咎メヌ。最後ノ文学士法学士藤本教授ノ祈祷論ノ発達ニ就テハ恐ルベキ愚論ヂャ。教授ト云フテモ英語カ何カ教ヘテ居ル奴デ宗教ノ方ハ素人デアラウ。夜杏香楼デ支那料理ガアッタガ往カヌ。（後略）

六月十三日　水　晴　午後高野山ノ講話、西川学生ノ弘法モ筆ノ誤ト云フ諺ニ就テト云フタガ大師ノ書法ヲ話シタモノ。次ニ上田学生大日経ニ説ク菩提ニ就テ、天野教授密教ノ仏身観。其後デ予ガ挨拶ヲサセラレ写真ヲ撮リ青年会ヘ往テタ食ヲ共ニシテ帰ル。（後略）

六月十六日　土　雨　午後学生ノ謡ヲ聞キニ往ク。大分ヨクナッタガマダ〳〵一人前ニハ遠イ。独吟ハ皆ダメ。先生ノ卒都婆(ママ)小町モ文句ダケハ合ウテ居ッタ。（中略）婦人会デ〈村上〉八重、曽木〈銀次郎〉ノ宅ニ往ク。夜ハゲシク咳嗽ガ出ル。

六月十七日　日　雨　礼拝田中〈義弘〉氏ノ説教。其後デ女ノ会アリシガ、（後略）

六月十八日　月　曇小雨トナル　旧端午節ヂャト云フノデ粽ヲ作ッテ食ベル。菖蒲湯ヘ往ク。四時間目ニ声ガ出ズ、三年ノ課業ヲ中止シテ帰ル。（中略）家城秀夫ガ青木みのるト云フ人ト米国デ婚礼スル案内ガ来ル。

六月二十日　水　朝カラ雨天デモアリ頭ノ工合悪ク準備ナシニ学校ヘ出テ三時マデ通スコトハ通シタガ大弱リシテ帰ルナリ横ニナッテ休ム。（後略）

六月二十一日　木　雨　非常ニイヤナ天気ナリ。声全クデズ。朝日（注薬局ナリ）ニ行キ大音錠ヲ買ッテAノ組ニ出ル。青年会々食ノ会費一円学生会ヘ行ッテ渡ス。二時十五分前カラ〈H・P・〉ジョンスノ宅デ出願委員会アリテ行ク。（後略）

六月二十二日　金　暴風雨屢々傘ヲ破ラントス。（中略）チャペルデ話サセラレル。常ニ喜ブベシト云フコトヲ話ス。（後略）

六月二十三日　土　晴　三年ノ本ガ終ッタノデ来週ハ休ミ、九月カラ詩ヲヤルト云ウタ。願書調製ノコトデ頭ガ悪クナッタカラ二年ノ漢文ヲ休ンダ。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉ニ教師ノコトヲ話シタ。（中略）〈村上〉謙介語学部[31]ニツイテ明石ヘ往ッタ。夜種々ノコトガアッテ安眠出来ナンダ、蚤モ困ラセタ。

六月二十四日　日　晴　礼拝ハ〈C・J・L・〉ベーツ氏説教。第一ヲ第一ト云フ題。（後略）

六月二十六日　火　曇　神学部ノ元始仏教ヲ終ル。（後略）

六月二十八日　木　晴　一年ノ業ヲ終ル。午後湯ニ入リ少シク運動ス。〈関西学院〉中学部ト甲陽〈中学〉ト庭球ノ試合ヲナシ居タルガ少シダケ見テ帰ル。（後略）

六月二十九日　金　曇　願書ノコト面倒クサク頭クシャ〳〵スル、（後略）

六月三十日　土　雨　課業終ル。願書ノコト三宅〈嘉策〉氏ヲ訪ヒ決定シテ書記ニ渡ス。午後下駄ヲ忘レテ帰リ〈村上〉八重ニ取リニ往テ貰フ。今日ハ非常ニ倦怠キ日ナリ、横ニナリタル侭少シク寝ル。（後略）

七月一日　日　雨　松本〈益吉〉ノ説教。（後略）

七月二日　月　曇　朝学校ニ出テ願書ノ調製ヲ視テ帰ル、（後略）

七月三日　火　雨　（前略）今夜山ノ講演ガアル。入場券モ貰ウテアッタガ行カヌ。

七月四日　水　晴　文学部ニ往キ次ニ三宅〈嘉策〉氏ヲ訪ヒ願書ノコトヲ聞合ス。其ヨリ神原〈浩〉[32]氏ノ展覧会ニ往ク積ナリシガ時間ナキヲ以テ次ニシ。（後略）

七月五日　木　雨　朝三宅〈嘉策〉氏ニ会ヒ其ヨリ海軍ニ趣キ商船ビルヂングニ神原浩氏ノ個人展覧会ヲ見ル。感ジノヨイ画ナリ。渡仏後ノ作ニハ傑物多シ。（後略）

七月八日　日　雨礼拝松本〈益吉〉氏、午後全ク家裡ニアリ、（後略）

七月十日　火　雨　午後湯ニ往キ帰ルト桑原ノ手紙来リ居レリ。〈村上〉園枝ノ熱未ダ去ラズト、明日〈村上〉八重ト予カ〈村上〉槙三カノ一人往クコトニ決シ岩屋へ電報ヲ打チニ行ク。中学部同窓会アリテ往ク積ナリシガ其ガ為ニ遅クナリテ往カズ。〈村上〉謙介往ク。（後略）

七月十五日　日　晴　教会松下〈績雄〉氏ノ話、（後略）

七月二十九日　日　晴　教会ニ往ク。松本〈益吉〉氏説教。（中略）宝塚野球、関〈西学院〉中〈学部〉姫〈路〉中〈学〉ニ十二対五ニテ破ラル

八月一日　水　晴　今田〈恵〉ノ所ヘ数字ノ説文ヲ抜粋シテ書イテ送ル。石内カラ〈村上〉謙介ノ身分証明書ガ来テ中央ノ書記ニ送ル。（後略）

八月二日　木　晴　朝七時〈村上〉醇造ト共ニメリケン波止場ニ大塩彦次郎氏ノカナダニ往クヲ送ル。（エムプレスオブカナダニテ本日十二時出帆、横浜ヲ四日ニ出発スルト云フ。）

九月十日　月　朝学校ヲ休ミ加藤ニ車デ往キアンチベリベリンノ注射ヲスル。脚気ノ傾向少シク悪クナッタタメナリ。帰ッテ柴野〈秀夫〉氏ヲ呼ビ、学校ノコト頼ム。（後略）

九月十一日　火　朝徒歩デ電車ヲ利用スル。一区乗過シテ後返ラセテ貰フ。帰路ハ忘レテ歩イテ帰ル、脈搏烈シク屡々倒レントス。学院デ日野原〈善輔〉ノ震災地実況談ガアッタガ固ヨリ往カズ。（後略）

九月十二日　水　晴　学校ヘ出テ二年ノ国文、一年ノ漢文及礼拝ノ司会ヲスマシテ帰ル。脈搏烈シク時ニ語閉ヂ困難ス。午後ハ休ンデ床ニ就イタ。（後略）

九月十三日　木　晴　脚タヽズ学校ヲ休ンデ床ニ就ク、（後略）

九月二十日　木　雨　床ヲ下ニ移ス。脈搏ノ工合大ニヨシ。震災見舞金、吉崎〈彦一〉弔慰金計七円岸波〈常蔵〉氏ヘ送ル。義捐金高十二円ヲ過ズ。（中略）吉崎アイ子ノ葬儀神戸教会デアリ。〈村上〉八重行ク。（後略）

九月二十一日　金　曇後雨風　学院ノ礼拝ニ出テ見ル。足動カヌヤウナリ。帰リニノウトヲ買ウテ来ル。（後略）

九月二十二日　土　晴　第二時間三年ノ教室ヘ出テ見タガ授業不可能ナノデ止メテカヘル。午後関〈西学院〉中〈学部〉ト神港〈商業〉ト〈陸上〉競技ノ試合ヲシタガ行カレ

ン。（後略）

九月二十四日　月　晴　午後野球（〈関西学院〉中学〈部〉―同志社〈中学〉）ガアッタガ留守番ニ当ッテ得往カナンダ。否間ニ合ハナンダ。（後略）

九月二十五日　火　晴　初メテ授業ヲ了ルコトガ出来タ。脚ガ大分確リシタ。（後略）

九月二十六日　水　晴　脈搏ガ烈シクナッテ礼拝ノ中途カラ帰リ、午後ノ時間ハ出ルコトガ出来ナンダ。二階ニ床ヲ取ッテ日ヲ暮ス。（後略）

九月二十七日　木　晴　朝登校シテ帰リ横臥シテ四時間ニ又出テカヘル。横ニナレバ直ニ七十内外ノ平脈ニナリ居ッタモノガ昨日カラ八十五ヨリ降ラヌ。今日ハ九十五ヲ降ラヌ。頭ガ少シ痛ム。熱モ七度マデ上ル。尤モ朝目ガ覚メタトキ床ノ中デ測ル脈ハ七十内外デアル。校庭デ〈W・J・M・〉クラッグ氏ニ見舞ヲ言ハレル。彼ノ父ハ九十七歳、母ハ八十五歳デアルト。五十八歳ハマダ若イノヂャ、用心セヨ〳〵。

九月二十八日　金　晴　朝一時間デ今日ハ楽。〈C・J・L・〉ベーツニ逢フ。ラニヤスニ逢フ。〈C・J・L・〉ベーツ夫人ガ飛ンデ来テ快癒ヲ喜ブト云フ。斯イフトキニハ西洋人ハ気持ガヨイ。日本人ハ喜怒色々現サズデハナイ、恐ク喜怒ヲ感ゼン人ノヤウニモ見エル。（後略）

十月一日　月　晴　チャペルヲ休ム。午後湯ニ往ク。

十月三日　水　晴　四時間ノ業ヲ果ス。（後略）

十月七日　日　曇　久シ振ニ教会ニ行ク。那須〈生平〉ノ詰ラン出鱈目ノ話ガアル。（後略）

十月十二日　金　晴　（前略）教師ト一年生トガ野球ヲヤッテ居タ。（後略）

十月十六日　火　晴　（前略）米国人某説教ニ来ル。頭悪ク往カズ。

十月十七日　水　晴　九時カラ創立記念式。今年ハ運動会ナク高等部ガ競技大会ヲスル。式ニ出ル。米国人某ノ尺取リラッパト歌トアリ。其後吉岡〈美国〉氏ノ話アリシガ帰ル。（後略）

十月二十日　土　晴　始メテ合同礼拝ニ出ル。柳原正義今日ヨリ職ニ就ク。二年漢文繰上ゲテクレヨト云ウテ来ルノデ往ッテ講義ヲヤッテ予定ダケ進メテ帰ル。朝ヨリ頭ワロシ。昨日不眠ノタメナラン。午後寝ル、（後略）

十月二十一日　日　晴　教会ヘ往ク。柳原〈正義〉ノ説教（思耐ノ宗教）マダ若イ。（後略）

十月二十四日　水　晴　二時間ノ一年ヲ金曜日ニ繰カヘルノデ楽ニナル。神学部中観大乗ヲ片付ケル。

十月二十六日　金　晴　チャペルデ話ヲスル。荒野デ悪魔ニ対セラレタ基督ノ態度ハ一生ソノ身ヲ守リタマヒシ態度デアル。ソレハ神ノ言ニ依テ住ムコトデアッタ。ソシテ人ハ新シキヲ求メル一面古キニ立ツ必要ガアル。其処ニ人間ノ美ハシサガアル、幸福ガアル、新シキモ其人ガ見出スノヂャト云フコトヲ説ク。三時間ニ一年ノ授業ヲシタ。（中略）英国水兵ヲフートボールヲヤル。一対〇デマケル。テニスモアッタガ見ナンダ。遠藤ニ逢ウタ。

十月二十七日　土　晴　チャペルニ行ク。静岡ノ牧師斉藤〈宗治〉ト云フ人ノ形容バカリデ大矛盾ノアル話ガアッタ。神ハ種々ノモノヲ用キテ低能ヤ或ハ高能ノモノヲ化セントシタマフ。午後婦人会ノ留守ヲシテ只湯ニダケ往カセテ貰フ。

十月二十八日　日　晴　柳原〈正義〉ノ司会デ松本〈益吉〉ノ説教。祈祷ト云フ題。予ノ話ガ余程入ッテ居タ。然シ全体浅薄ナ話。尤モ説教ニハ此方ガ宜イ。（後略）

十月三十日　火　晴曇後雨トナル　今日中学部ノ運動会。障碍物ノ所ヲ見ル。（後略）

十月三十一日　水　曇小雨　九時カラ礼拝ニ往ク。田中〈義弘〉ノ演説、何ノコトヤラ分ラン、近年ノ拝賀式ハ総テ其気分ガセヌ。其心ガ薄イカラデアラウ。此イフ式ハ日本人デナケレバ無理ヂャ。高等部ノ生徒十人デモ来テ居タラウ。明日カラ試験ガアル。（後略）

十一月一日　木　曇　試験始ル。二年ノ国文ト四年文明史ノ監督スル。頼ナイ題ガ出テ居タ。（後略）

十一月二日　金　曇　神学部ノ試験ヲスル、（後略）

十一月三日　土　晴　三年ノ試験、午後湯ニ行ク。何処ヘモ出ヌ。

十一月四日　日　晴　礼拝ノ後デ柳原〈正義〉ト〈村上〉謙介すみれノ歓迎会アリ鮓ヲ食ベル、（後略）

十一月六日　火　晴　朝礼拝ヲ司ル。二年生ガ〈L・C・スキートマン氏ノ試験ヲ止メテクレト云フ相談ヲシテ居タガ放テ置テカヘル。（後略）

十一月七日　水　雨　二年漢文ノ試験ヲヤル。（後略）

十一月八日　木　半晴大変寒イ　（前略）明日ト間違ヘテ一年ノ試験ニ後レテ行ク。夜モ又明日ト間違ヘテ〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ノ宅ヘヨバレニ行ク。

十一月九日　金　晴　夜〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ノ宅デ饗バレル。中村〈為治〉歓迎ト試験ノスンダ慰労、蓄音機ヲ聞ク。布哇ノフラ〳〵モアッタ。

十一月十一日　日　晴　朝礼拝松本〈益吉〉、ホ、エメル基督、俗ニ沈ンデ居ル奴ニ俗界ニ出デヨト云フ説教ハ意

味ガナイ。近頃ハ宣伝的ノ話デ人ヲ教フル説教ガ何処ヘ往テモ無イ。（後略）

十一月十二日　月　午後雨トナル　採点ヲ終リ学校ニ行キ報告ヲ済シテ帰ル。（後略）

十一月十三日　火　雨　神学部始ル。（後略）

十一月十四日　水　晴　時間割変更アリテ今日ヨリ始業、礼拝ニロマ書十二章ヲ読ム。（後略）

十一月十五日　木　晴　商科ノ建築落成式、礼拝時間カラ自然ト業ガナクナル。（後略）

十一月十六日　金　晴　一時間ヲスマシ其儘学校ニ居テ礼拝ヲスマシテ帰リ四時間ニ又出テ三年ヲスマス。午後湯ニ行ク。中学部遠足、〈村上〉謙介六甲カラ布引ニ出テカヘル。

十一月十七日　土　雨　四時間ダケ出ル。時間割変更此後斯ノ如シ。午後学院婦人会留守番ヲスル。一年ＢＣフートボール〈村上〉謙介組勝ツ。（後略）

十一月二十日　火　朝神学部ニ出テ授業スル。声ニ困ル。四時間ニ又往ク、殆ド声出デズ、午後大室歯科医ニ往ク、前カラノ義歯ノ方モ取除ク。（後略）

十一月二十一日　水　晴　歯ノタメニ学校ヲ休ム。（後略）

十一月二十二日　木　晴　学校ヲ休ム、午後歯医者ヘ往ク。（後略）

十一月二十三日　金　曇　全国中学校ノ庭球大会[33]ガアッタガ見ズ。関西中学部優勝ス、集ルモノ六十余校、野球モアルト云フノデ見ニ往ッタガナカッタ。（後略）

十一月二十四日　土　雨　（前略）夜商学会ノ講演ガアッタ。（後略）

十一月二十六日　月　晴　（前略）今日ハ理事会デ〈Ｈ・Ｆ・〉ウヅ〈ウォース〉氏ガ来ヌノデ司会シテ河上〈丈太郎〉サンガ話サレタ。其カラ銭貰ヒニ総務部ヘ往キ銀行ヘ往キ、帰ッテソレヲ渡シテエオイテ学校ヘ出テ四時間ヲツトメ、ソレカラ東部教会ノ〈Ｓ・Ｅ・〉ヘーガー、〈Ｊ・Ｔ・〉マイヤス[34]三十年祝賀ニ出テスキ焼ヲ食シ帰ッタラ頭ガ悪クナッタ。（後略）

十一月二十八日　水　雨　朝司会ノホカ新明〈正道〉氏ガ来ヌノデ急ニ話ヲスル。講堂出席ノ減ジタコトヲ云ウテ人ノ感情ハ誤ルコトガアルカラ、規律ヲ守リ善事ニハ力ヲ尽クスヤウニセヨト云ウタ。（後略）

十二月一日　土　晴　今日カラ中央チャペルヘ出ル、アイスクリームハ日本ガ元祖ヂャトマルコポーロノ紀行ニ書イテアルト云フ話ヲ那須〈生平〉氏ガヤッタ。然シ東洋ヲ自覚シタモノデアッテ趣意モ芥子種一粒ホドノ信仰ガアレ

バ云々デ悪クナカッタ。（後略）

十二月二日　日　晴　礼拝松本〈益吉〉ノ談、生命ノパン、此評ハスマイ。（後略）

十二月四日　火　晴　学生会デ礼拝ヲ合同シタ。ソレデ文科ヘ行カズ済ンダ。朝頭巻ヲシテ往カサレ、ソレヲ忘レテ帰リ、四時間ニテ気ガツカズ、往テ返ッタ。ソレヲ午食ノ時ニ気ガツイテ取ニ往ク。（後略）

十二月五日　水　曇　（前略）文学会ガアッタメ遅クナッテ五時間目ノ漢文ヲ休ム。

十二月六日　木　晴ニナル朝ハ雨ナリキ　礼拝マデ居タガ身体ノ加減悪ク一応出ナホシテ四時間ヲスマス。（後略）

十二月七日　金　曇　礼拝デ眠カッタ。今日ハ非常ニ身体ガダルイ。

十二月九日　日　晴　礼拝、柳原〈正義〉たやすき旅路。午後彼ノ宅ヲ訪ネル、不在。

十二月十一日　水　晴　講堂デ岡島某（吉岡夫人ノ兄弟）土地法案ニ就テ話スト云フノデアッタガ、要スルニ排日ノ原因ハ日本人ガ風俗ヲ乱スカラヂャト云フコトヲ談シタ。（中略）夕刻一寸散歩シテ見ル。中央講堂ニ謡会ガアル。

十二月十四日　金　晴　文学部デ木村巳〈之〉吉氏ニ逢フ。（後略）

十二月十五日　土　晴　午後婦人会、（後略）

十二月十六日　日　晴　教会松本〈益吉〉ノ説教。今日ハ非常ニシンミリトシタ好イ集リデアッタ。勿論話ハ平凡デ人ノ真似ヲシタ例ノ凡神的ノコトヲ云ウタガ、集会ノ気分ハ必シモ牧師ノ説教シハヨラヌト見エル。十三人洗礼ヲウケル。（後略）

十二月十七日　月　晴　三年出席セズ。チャペルデ話ヲスル。突然ノコト大ニ困ル。悔改ニ就イテ話ス、（後略）

十二月十八日　火　晴　午後四時カラ啓明寮ノクリスマスガアルガ往カナンダ。

十二月十九日　水　晴　一年Aガ三人シカ出ズ、愚図〳〵シテ居タ。課業ヲ休ム。Bハ四時間ニ繰上ゲテ業ヲスル。今回カラ決議シテ休ム習慣ガ始ッタノデ、三年ガ第一、二年ガ其次ニ休ム。コレハ悪風ヂャ。休ムナラバ自分ダケ休メバヨイ。他ヲ強迫シテ休マスノハ第一ニ悪イ。又此習慣ハ今ノ内ニ禁ゼヌト種々ノ弊害ガ起ルモトヂャ。夜クリスマス（青年会ノ）予留守番シテ他皆往ク。（後略）

十二月二十日　木　晴　一年生出席シ平素ノ授業ヲシタ。A組ヲ三時間ニ繰上ゲル。夜神学生ノクリスマスガ有タガ往カナンダ。（後略）

十二月二十一日　金　晴　礼拝ニ出ル。午後二時カラ教

授会。三年決議休暇問題。西洋人ハ何時デモ斯イフ時ニハ八釜シイ処分法ヲ取ル。ケレドモ斯ンナコトハ彼等ガ無能デアルカラ起ルノヂャ。松本〈益吉〉カラ無試験検定出願ノコトニツキ聞ク。夜教会ノクリスマス、留守番スル。雨ガ降リ出シ傘ヲモッテ往ク。今晩ノモノ、多クハ主ノ降誕ヲ喜ブ資格ヲモッテ居ルマイ。

十二月二十三日　日　晴午後曇時ニ霰ヲ降ラス　朝柳原〈正義〉ノ説教。菊池〈七郎〉ニクリスマスノ金ト真鍋〈由郎〉ニコトヅカッタ教会費ヲ渡ス。（後略）

十二月二十六日　水　晴　（前略）新年ノ式ニツキ三宅氏ヲ訪ヒ帰路松本〈益吉〉ヲ訪ハントシテ往ク途中、田中〈義弘〉ニ出逢ヒ引返ス。（後略）

十二月二十七日　木　晴　外出セズ。午後摂政宮殿下ノ自動車ニ発銃シタル兇漢アリ、号外頻ニ来ル。天下国家ニ関スル主義ヤ思想ヲ無学ノモノドモガイヂクルヤウニナルノハ極メテ危険且無意味ノコトデアル。（中略）蒙鵬斜飛烈日前、明輝不蔽影消遷、狂軽世上言論忽、煽惑小民罪戻天

十二月三十日　日　晴　礼拝松本〈益吉〉氏、人少ク下デ集リヲスル、（後略）

## 大正十三年

一月一日　火　晴　近年ニナキ天気ヲ以テ此日ヲ迎フ。（中略）拝賀式例ノ通リ中学部ノ生徒バカリ、柳原〈正義〉ロッキー山中ノ自由村カラ説教シテ清教徒ノ称讃ヲヤッテ南米ヲ罵倒スル。生徒ガ方々笑フノデ気ガツキ、日本ハ外国ノ真似ヲスルニハ及バヌガ理想ニ由テ立ヨト結ブ。其前ニ吉岡〈美国〉名誉院長教育勅語ニカヘテ震災ノ勅語ヲ読ム。後デ下ノ室ニ集リ茶ヲ飲ミ菓子ヲ貰ウテ出ル。今日ハ廻礼ヲ止メルト云フノデ楽ヂャガ、来テクレタ人ノ所ヘハ往カネバナランデ午後外出スル。（後略）

一月四日　金　午後曇　（前略）東洋思想史ノ講義孔子ヲ書キ始メル。（後略）

一月五日　土　晴　孔子ノ伝ヲ終ッテカラ、百年目ト云フ二日ニ調ベタコトヲ随筆ニ書ク、（中略）其カラ孔子世家ヲ読ンデ今日ノ仕事ヲ終ル。（後略）

一月六日　日　晴　朝留守番シテ教会ヘ出ズ。社交室デ礼拝ヲシタト聞ク。（後略）

一月八日　火　晴　学校ガ始ッタ。神学部ノ授業シタ。声ガ少シ出ニクカッタ。文学部ノ礼拝ヘ出タ。祈ヲ頼マレテスル。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ノ話デアッタ。（後略）

一月九日　水　曇小雨　夜五時カラ中村賢二郎ガ来ルノ

デ新年会ヲ兼ネ同窓会ヲ第一楼デヤルト云フノデ往ク積リニシテ居タガ天候ガ悪クナッタノデ止メタ。スルトアチラモ中村〈賢二郎〉ガ来ラレンヤウニナッタカラト云フノデ中止デアッタゲナ。ヤレ〳〵能ク往カナンダコトヂャ。（後略）

一月十日　木　晴　講堂ノ話河上〈丈太郎〉サンデアル。昨日ハ岸波〈常蔵〉サンデアッタ。一年ノ両方トモ平原君列伝デアッタ。是モ昨日其初カラ始メタノヂャ、（後略）

一月十一日　金　晴　二年国文明石ノ巻ニカ、ル。礼拝モ新明〈正道〉氏ガ無準備ナノデ甲子懐古ノ談ヲスル。（後略）

一月十二日　土　曇　礼拝ヘ出ナンダ。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏今日帰ル。二年漢文五蠹（ごと）ノ終カラ顕学ノ初マデ、三年古誌十九首ノ第二カラ。午後婦人会デ〈村上〉八重出ル。（後略）

一月十四日　月　曇　礼拝ノ話ヲ新明〈正道〉サンニシテモラフ。（後略）

一月十五日　火　曇　（前略）今日文学部ヘ往カナンダガ、教員無試験検定ガ許可ニナッタト云ウテ〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏ガ午後湯ニ入ッタ留守ヘ来テ言ウテ置イタ。結構ナコト、殊ニ破格ニ易ク許可シタモノヂャ。（後略）

一月十六日　水　曇　礼拝ノ時間ニ〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉氏カラ指定ノコトヲ発表スル。予モ一口添ヘテ置ク。（中略）神学部華厳ヲスマシテ禅宗ニカ、ル。（後略）

一月十七日　木　午後曇　（前略）三宅サンヲ尋ネテ文部省ノ達示ヲ写シテ来テ掲示サセル。夕刻三宅サンガ来テ神崎〈驥一〉サンガ馬鹿ナコトヲ云ウテ県庁ヘ往ケト云フカラ、アナタノ御意見ヲ伺フト云フノデ、馬鹿ナコトヲ云フテ往ク必要ハナイ、オ止シナサイト云ウテ帰ラス。

一月十八日　金　晴　（前略）礼拝ノ時間カラ指定ノ公表式ガアル。〈C・J・L・〉ベーツト吉岡〈美国〉ノ話、其後河上〈丈太郎〉ト今田〈恵〉トガ社会ト哲学ヲ代表シテ話ス。横堀ガ一口ノ挨拶。ソコヘ偶然支那カラ来タ一カナダ人、一支那人ガ揃ヒモ揃ウテクダラヌ話ヲシテ三時間目ヲツブシタ。（後略）

一月十九日　土　晴　チャペルデコルタート云フ市俄古大学教授ノ話ガアッテ三時間目ガ短クナル。夜学生ノ音楽会ガアッテ皆往キ留守番シタノデ十一時ニ寝タ。（後略）

一月二十日　日　午後曇　柳原〈正義〉氏ノ説教英雄パウロヲ懐フ。（後略）

一月二十一日　月　晴　三年古詩十九首終リ陶淵明ニ

カヽル。（後略）

一月二十二日　火　晴　神学一年四時間ヲ礼拝時間ニサセラレル。米国カラ何トカ云フ人ガ来テ四時間ニチャペルデ話スカラト云フコト。

一月二十三日　水　後曇　（前略）今日ノチャペルニ朝鮮ニ居ル宣教師ノ〈F・H・〉スミスト云フ人来テ大キナ歌ヲウタフ。金ヲホメルノガ現代人ノ心デアルガ、我々ハ本来物ヲ得ルタメニ生レテハ来ヌ。与ヘニ来タ。人間ハ実際ノコトヲ知ラヌ。我々ハ今頭ガ上ニアルト思フガ地球ハ廻ルカラ下デアルカモ知レント云フ話ヲシタ。

一月二十四日　木　後曇　宮崎県ドコヤラノ校長何トカ云フ人ガ訪ネテ来テ一人教師ニ卒業生ヲクレヨト云フ。鮫島〈鱗太郎〉ヲ聞合セ紹介ス。非常ニ懇望ノ意ヲ遣シテ去ル。上海ヘ書物ヲ調ベテ注文スル。ソレヤ是ヤデ講堂モ欠席、朝出テ昼遅ク帰ル。（後略）

一月二十五日　金　曇　朝総務部ヘ往ッテ農工〈銀行〉ヘ往ッテ来ル。午後擬国会ガアッタカラ見ニ往ッタ。田中〈義弘〉ガ議長、松本〈益吉〉ガ総理大臣、外務ガ神崎〈驥一〉、大蔵ガ東〈晋太郎〉、議員ハ商工党ガ御用デ農民ト自由トアッタガ、マルデ物ニ成ラヌ。ソレニ今ノ日本ノ悪国会ヲマネテ居ル。見物モ芝居ヲ見ルヤウニ拍手ヤ弥次デ八釜シイノデ少ク見テ帰ッテ湯ニ往ッタ。（後略）

一月二十六日　土　雪　東宮殿下ノ御婚礼、九時カラ講堂ニ集ル。河上〈丈太郎〉ノ聖書、亀徳〈一男〉ノ祈祷、松本〈益吉〉ノクダラン話ト〈C・J・L・〉ベーツノ話ハ宜カッタ、国ハ政治ノ単位デナイ、社会的ニ種々ノ方面カラ考ヘ見ネバナラント云フ趣意、其後デ東ヲ向イテ君ヶ代三回、万歳三声デ終ル、司会者ハ吉岡〈美国〉。（後略）

一月二十八日　月　午後曇朝〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉サンガ居ランデ礼拝ノ司会ヲスル。中村サンガ主ノ祈ニ就イテ話シタ。（後略）

一月三十日　水　晴　例ノ忙シイ日。チャペルデ平五塚ノ話ヲスル。（後略）

一月三十一日　木　晴　朝ノ時間ヲ終リテ帰リ第四時ニ又往ク。今朝少シ鼻血ガ出カケタノデ気ヲツケタ。（後略）

二月三日　日　晴　（前略）礼拝柳原〈正義〉母ノ話ヲスル。近頃西洋ノ風ガ入テ矢鱈ニ母ト云フコトヲ云ウテ父ノコトヲ云ハン。是ハ母ノ情ガ児ニ深ク感ゼラレルカラ起ッタト云フガ実ハ古ノ母系時代カラ来タ習慣ニ過ギン。スベテ此調子ニ余所ノ思想ヤ習慣ガ好奇的ニ人ノ心ヲ動スト云フ軽イ国民ハヨイ所モアルガ悪イ所モアル、（後略）

二月四日　月　晴　文学会総会ヲ開クト云フノデ四時間

目モ休ニナル。午後日和ガ好イノデ少シ散歩セウカト思ウタガモウ二三日注意スルコトニスル。熊本県立商業学校長金井浩、熊本市立商工学校長佐藤松治郎ト云フ人教師ヲ得タイト云ウテ訪ネテ来ル。（後略）

二月五日　火　晴　文部省カラ試験期日ヲ知ラセト云ウテ来タト云ウコトヤ種々ノコトガアッテ午前中全ク時ヲツブサル。午後モ手紙ヤ何ヤ、其カラ長田ヘ往ッテ上野〈可燃〉氏ヲ訪ネテ津川〈主一〉ノコトヲ話スヤラデゴタ〳〵ト湯ニモ往カズ一日ヲ済シ八時コロニ飯タベル。（後略）

二月六日　水　晴　殿岡ニ白話詩ノ書面ヲ知ラス。津川〈主一〉ニ会ハナンダ。曽根〈鼎〉ニ点数ヲ送ラス。午後臨時教師会議アリテ今日ハ朝カラタ刻マデカヽル。（後略）

二月七日　木　雨　熊本県立商業学校長金井浩、熊本市立商工学校長佐藤松治郎二人ヘ手紙ヲ出シ、又其名刺ヲ商科ニ廻シ返事ノコトヲ頼ンデ置ク。諸中学校長ヘ出ス手紙ノ文ヲ作リカヘテヤル。種々ノコトデ午前ガ皆ツブレル。（後略）

二月八日　金　曇　感冒ノタメ一時間ガスンデカラ籠ッテ居タガ、卒業生ガ一緒ニ写真ヲ撮ッテクレト云フ故ニ十二時半ニ出カケル、午後ハ宅ニ居ル。（後略）

二月十一日　月　晴　拝賀式九時カラ、西山〈廣栄〉氏アッサリシタ感話ヲ述ベル。今日始テ熱上ラズ、湯ニ往カウカト思ウタガ尚一日見合スコトニスル。（後略）

二月十二日　火　晴　午後久シ振ニ湯ヘ往ッテ見ル。熱少シ上ル。日高佐七氏ヨリ手紙来リ啓明寮ヘ往キ、江原〈隆二〉ニ鮫島〈鱗太郎〉ノ宿ヲ聞イテ訪ネテ用事ヲ済マシテカヘル。

二月十三日　水　晴　朝カラ忙ガシヅヾケデ午後ハ頭ガ痛ンデ何モ出来ナンダ。（中略）日高〈佐七〉氏ヘ手紙ヲ書イテ出ス。（後略）

二月十五日　金　晴　一時間スマシテ和歌山県箕島町ノ商業学校長立仙某ヘ返信ヲ書キチャペルヘ出テ帰ル。チャペルデ松沢〈兼人〉氏ガ神モ発展スルカラ我々モ発展セネバナラント云フヤウナ寝言ヲ云フ。斯ンナチャペルガ何ノ意義ガアルカト常ニ疑フ。（後略）

二月十六日　土　晴　（前略）四年ノ奴等ガ彼ニ此ニ就職ノ中ヲ頼ミサガサセテ選択セウトスル態度ノアルコトガ分ッテ畜生ノヤウナ奴等ヂャト思ウタ。是ガ四年間不教育ノ結果デアル。

二月十七日　日　晴　朝柳原〈正義〉ノ説教、後デ〈村上〉すみれ学生十人ト洗礼ヲ受ケル（松本〈益吉〉ヨリ）。（後略）

二月十八日　月　晴　朝歯ヲハメルノヲ忘レ羽織ノ紐ヲ

忘レテ出ル。紐ハコヨリデ間ニ合ハセタガ歯ニハ困ッタ。ソレニ聖書ヲ読ム日ニ当ッテ居ルノデ情ナイ。話ハセナンダ。十一時半カラ文学会ノ送別会デ明海〈ビル〉ニ往ク、少シ後レタ、馬鹿等ガ馬鹿気タ話ヲスル、予ニモ話セト云ウタガ話サナンダ、（後略）

二月十九日　火　曇　（前略）菊池〈七郎〉サン支那カラ本ガ来タト持テ来テ下サル。礼拝ニ出ル。

二月二十日　水　晴　忙シイ日デ半日以上立ヅメ大ニ健康ヲ害シタ、支那カラ来タ本ヲ学校ニモッテ往キ、〈H・F・ウヅ〉〈ウォース〉氏ニ金モラヒ、又郵便局カラ金ヲ出シテ午後菊池〈七郎〉氏ヲ商科ニ尋ネタガ帰宅ノ後ニテ宅ヘ持行キテ渡ス。計二十三円二十一銭ト為替料及書留料計三十銭ヲカヘタ。（後略）

二月二十一日　木　晴　午後学院カラ帰ッテ湯ニ入ッテ四時カラ寄宿舎ノ送別会ヘ招カレテ写真ヲ撮リ、舎ノチャペルデ話ヲスル。今朝カラ頭ヤ声ノ工合ガ悪クテ大ニ心配シタガ種々ト手当シタオ蔭デ自由ニ話スコトガ出来タ。其後和洋料理ニヨバレ種々ノテーブルスピーチヲ聞イテ中途カラ帰ル。小澤〈濵〉サンガ頭ヲ掻イテ困ッテ居タガ、先年長寿ノ秘訣ヲ説イタ本ヲ読ンデ其秘訣ヲ嘘ヲ言ハヌコトデアルト教ヘテアッタノデ感心シタト話シタノハ一番ヨカッタ。

二月二十三日　土　曇　雪チラツク。商科ガ卒業生デーヲヤル。礼拝ハ其デ別々ニ行ハレタ。（中略）十二時半カラ平和楼デ謝恩ノ昼飯ニヨバレル。行路電車デ河上〈丈太郎〉サント一緒ニナル。帰路〈H・F・ウヅ〉〈ウォース〉、河上〈丈太郎〉両君ト一緒、料理ハ前ニ来タトキヨリモ味モ支那ニ近ク冷菓モ出シ、料理モ別々ニセナンダ所ハヨイガ最後ノ日本飯、菓物、コーヒー、其カラ女給、室其物ガ奇麗デハアルガ異端ノ気分ヲ起サセル。（後略）

二月二十五日　月　晴　昨日ヨリ少シ増シナレドモ寒イ。一年Aヲ一時間ニ繰変ヘテクレヨト云フノデ往ッテ見ルト生徒ノ方ヘ通知ガシテナイノデ馬鹿ヲ見ル。三時間目ニ金モラヒニ銀行ヘ往ッテ来ル。四時間三年生一人モ居ランノデ休ム。（後略）

二月二十六日　火　午後曇　（前略）中学部ニ行キ〈村上〉醇造ノ入学願書ヲ出ス。神学部ハ休ミ、送別旅行ドモヤッタト見エテ戸ガ鎖レテアル、文学部ニ往キ出席簿ノコトヲ云ウテ来ル。（後略）

二月二十八日　木　午後曇　曽根〈鼎〉ニ書籍ノコトヲ話ス。（後略）

二月二十九日　金　曇　講堂デ東北大学ヘ入学出来ルヤ

ウニナッタコトヲ告示ス。〈H・F・〉ウヅ〈ウォース〉ト相談等ガアッテ、三時間ノ終頃帰ル。午後頭痛シ、半分ハ火燵ニ居ル、（後略）

三月一日　土　晴　卒業生ノ試験ガ今日カラ始ル。文部省カラ来ルト云フノデアッタガ多分来マイト思ウテ居ルト果シテ来ヌ。曽木〈銀次郎〉ガ礼拝ニ出テ居ル間ニコンサイスノ字書ヲ盗マレタト云ウテ来ル。一寸シラベタガ分ラン。（後略）

三月二日　日　晴　（前略）午後二時半ヨリ卒業説教、其前ニ音楽礼拝ト云フノガアッテ、〈H・W・〉アウターノ夫人ノホカハ少モ面白クナイ唱歌ヤラピアノヤラヲ聞カサレ、説教ハ鵜崎〈庚五郎〉、キリスト、奉仕、献身ニ就テ種々気ニ入ランコトモ云ウタガマア毎年ノ常文句デ無カッタコトヲ悦ンデ置ク、一寸物ヲ云フ。（後略）

三月三日　月　晴　（前略）文部省カラ菅原〈信治〉ト云フ人、県カラ一人ヤッテ来ル、午後モ出テ忙シイ。

三月四日　火　晴　今日ハ用事ノ無イ日デアッタガ文部省ノ先生来ルノデ神学部ノ四時間目モ休ンデ午後三時過マデ引張ラレル。三戸〈吉太郎〉ガ大変悪イト〈C・J・L・〉ベーツニ聞イテ、往カウト思ウタガ時間ノ都合往クコトガ出来ナンダガ、松下〈績雄〉ニ聞クト大シタコトハ無イ、只言ヲ忘レタリスルト云フノデ要スルニ狼狽シタノデアルガ、ソレデ結構ヂャ。新宅ヲ訪ネル、文科ノコトヲ話ス。夜〈H・W・〉アウターブリッヂノ送別会、中央〈講堂〉社交室デスキ焼。（後略）

三月五日　水　曇　朝義歯ヲ外シタマヽ忘レテ学校ニ往キ、一年モ二年モマルデ講義スルノデ声ヲ休ムル暇モナク、オマケニチャペルマデアッテ大困リシタ、午後又一時間、後ニハ声ガ全ク出ヌヤウニナッタ。湯ニ入リ運動シ問題ヲ書キ（中略）文部ノ先生今日返ル。

三月六日　木　午後雨　朝出テ一時間ヲスマシ問題ヲ書キ礼拝ノ後、国民文庫刊行会網野新二郎ト云フ人来テ国訳漢文ヲ買ヘト云フ。其後ゴタ〳〵用事アリテ四時間ノ終マデ居ル。礼拝デメタルヲ出サヌ、優等ヲ発表セヌコトヲ告ゲル。午後三時カラ教授会メタルコトデ一議論ヤル、入学試験委員キマル、八十点以上ニ優良証書ヲヤルコトヲキマル。（後略）

三月七日　金　晴　九時半ヨリ卒業式、吉野作造氏ノ話ガアル。内務部長ト随員属官、小島サンガ来賓ニ来ル。〈C・J・L・〉ベーツ院長ノ告辞ト商科ノ答辞ト吉岡〈美国〉サンノ司会ノ語ガ長過ギタ。吉野サンノ話ハ其位置ニ於テ無クテハナラヌ人ニナレト云フノデアッタ。午後湯ニ往ク。

夜六時カラ杏香楼ノ土間デ同窓会ガアッテ行ク。十一時ニ寝ル。気候ノ工合カ今日ハ始終頭ガ痛カッタ。

三月九日　日　晴　教会、則末〈寛〉[35]サンガ話ヲシタ。（後略）

三月十日　月　晴　間違ヘテ朝後レル。ソレニ気ガツカナンダ。二年ノ漢文ノ試験ガアッタ。午後ハ採点ニ夜マデカ、ッテスコシ残ッタ。

三月十一日　火　晴　三年ノ試験ヲ終ッテカラ〈H・W・アウターブリッヂ〉[36]ノ帰国ヲ送ルノデ突堤ニ往ク。間違ヘテ第二ヲ一周シテ捜シタガ分ランノデ京橋ノ所ヘ往ッテ見ルト始メテ其事ガ分ッタノデ、トッテー返サウカト思ウタガトッテーモ駄目ダ。十一時ノ出帆、今ハ十一時ニ二十分モ過ギテ居ルト思ヒ、返ル積リデ遊園地ノ所マデ来タガ、マァ、アレデモ覗イテ見ウト思ヒ第三ノ口カラ入テ東ニトッテー出テ見ルトマダ居ル。ソコデ大急ギデヤッテ往ク中、〈村上〉すみれヤ平井〈丹司〉サンヤ四五人帰リ居ルノヲ見テヤッテ往クト下船鐘ガ鳴ッテ人ガドヤ〳〵下リテ来ルノデ乗船ハセナンダ。其中時計ヲ見ルト十二時ニナッテ、船ニハ十一時ノ鐘ヲ打ッテ出発シタ。香港ノ十一時デアラウ。カナダ学校ノ小児ガ多ク来テ居ッタ。

三月十二日　水　曇　朝一年漢文、二年国文ノ試験ヲヤル、（中略）社会科ノ三人留守ヘ礼ニ来ル。

三月十三日　木　晴　学院ニ居ルト峠田〈頼吉〉[37]氏来リ中村清入学ノコトヲ談シ一時間余話シテ居ル。（後略）

三月十四日　金　雪少シ　午前学校ニ居ル。夕刻マデニ採点終ル。（後略）

三月十五日　土　雪チラツク　朝チャペルヲ司会シテ成績発表ト留級願ノコト、実業学校入学ノコトヲ通知スル。点ノ記入ヲ手伝ヒテ午マデ居ル。（後略）

三月十六日　日　晴　礼拝説教柳原浪夫氏、メソ〈ヂスト〉ノ元老デアラウガ相替ラズ書生ノヤウナ話ヲスル。三四十年モ伝道シテ居テモ少シ人生ニ触レタ人ヲ感ゼサスヤウナ話ハ出来ヌノカ。田崎ノ悪口ヲ佐藤ニ一々話シテアノ話ヲアレ〈細君〉ニハイウテクレナイトイフト佐藤ハ平気デ言ヒマシタ。触ル、所ニ平和ヲ遣サズ不和ノ種ヲ蒔イテ行ク。然シ罪ノ無イ男デハアルノヂャ。（後略）

三月十七日　月　晴　午前学校ニデル。試験今日ニテ終ル、（中略）夕刻〈村上〉謙介来テ国文選ヲモッテ行ク。此中ノ文ヲ盗ンデ作文ニスル奴ガアルト云ウタ。

三月十八日　火　晴　午前一寸学校ヘ往テ返ル。午後鈴木（一年）ト中道ノタメニ竹村ガ運動ニ来ル、運動ニ来タ奴ハ大抵落チルニ極ッテ居ル。〈神戸〉ニ中ヘ上野〈可燃〉

氏ニ逢ヒニ行クツモリデアッタガ余リ寒イノデヤメル、（中略）上野〈可燃〉氏ヘ手紙出ス。

三月十九日　水　晴　午後宮野氏卒業ノ礼トシテ親ガ来ル筈ヂャガト云ウノデ菓子箱持チテ来ル。横堀〈富雄〉モ来テ就職ガ出来レバ京都ハ止メルト云フノデ後々急ニ長田ヘ出掛ケテ上野〈可燃〉氏ヲ訪ネ、不在デ〈神戸〉二中辺マデ徒歩、門ノ所デ逢ウテ話ヲシテ来ル。〈神戸〉二中ニハ大学ニ入ラントシタ人止メタ故不用、〈神戸〉三中ニ入ルナラントノコト話シテ貰フヤウニ頼ンデ、帰路横堀〈富雄〉ニ其事ヲ話ス。（後略）

三月二十日　木　晴　午前成績シラベノ為メ学校ニ往ク、（中略）成績シラベ晩九時マデカ、ル。（後略）

三月二十一日　金　雨　八時半ヨリ教授会、今年ハ落第者ガ少ク早ク済ム。七十点以上アリテ一科デ落第ノモノニ限リ再試験ヲ行フコトヲキメル。後デイラヌ話ガ出テ来テ親子丼ヲヨバレ、発表ノ掲示ヲ済マセテカヘル。

三月二十二日　土　午後曇　神学部ノ試験問題ヲ出シテカヘル。総務部デ金受取ル。（後略）

三月二十三日　日　礼拝ヘ留守番スル。（中略）落第生二三人訪ネテ来ル。砂川〈寛栄〉氏訪来、横堀〈富雄〉ノコト直接ニ話シテ貰フ。

三月二十五日　火　曇　学校ヘ出テ川瀬ノ成績ヲ写シ、松本〈益吉〉ヘモッテ行ク。菊池〈七郎〉サンニ途中デ逢フ。吉岡〈美国〉ヲ訪ネテ昼マデカ、ル。午後堀〈峰橘〉氏ヲ訪フ、（後略）

三月二十九日　土　午後曇　中学部入学試験七時半ニ勢揃ヘト云フノデ〈村上〉醇造飛ンデ往ク。後カラ往ッテ田中〈義弘〉、真鍋〈由郎〉氏等ニ頼ム。一度出ナホシテ各学部ヘ往ク。〈H・F・〉ウ〈ヴウォース〉氏ガ来テ杉浦ノコトニ就キ愚図ルモノアリ、月曜日ニ教授会ヲ開イテハ如何カト云フニツイテ一寸成績表ヲ見ル用事ガアッタカラ、午後モ又出ル。（後略）

三月三十日　日　晴　教会柳原〈正義〉生命ノ偉力ト云フ作文ノヤウナ話。埃及（エジプト）ノ墓カラ出タ麦ノ話モアッタ。四十年前ニ聞カサレタ話。今ニヤッテ居ル。デモ面白ガテ人ガ聞クカラ妙ヂャ。（後略）

三月三十一日　月　晴　九時ヨリ教授会、正午マデカ、ル。夕刻〈村上〉醇造ヲツレテ青谷ヲ廻ッテ来ル。今日中学部ノ入学試験。算術ガ六ケシカッタノデ大ニ消気込ンデ居ル。六ケ敷イモノハ皆六ケ敷イノヂャカラヨイ。（後略）

【注】

（1）熊本教会牧師（明治四十一年三月～四十三年四月、明治四十四年三月～大正十三年一月）。翌十二年三月十九日に鎮西学院院長の川崎升と関西学院を、翌日にランバス女学校を訪れている。その報告が『日本メゾヂスト教会第十六回西部年会記録』（大正十二年）に記されている。「委員は大正十二年三月十九日関西学院を訪問せり。関西学院は大チャペル及び各部校舎の新築完成し、万般の設備亦遺憾なく、まことに堂々たる観を成せり。現在の生徒総数は千五百七拾三名にして内訳中学部七百七十一名　高等商業部六百三十二名　文科百拾四名　神学部五拾六名なりとす。関西学院が我教会の重望を荷へる学院として其理想をなすに必要なる要素は物質的にも智的にも霊的にも着々完備の域に進みつゝあり。主の祝福更に加はり益々発展して我国最高学府の一となり、啻に教会勢力の中心たるのみならず、思想界にも、実業界にも、社会の各方面に基督教勢力の中心と仰かるゝに至らんことを希望し且つ祈りて止まざるものなり」。（九〇～九一頁）

（2）原田の森キャンパスの南にあったまんじゅう屋。

（3）新約聖書ガラテアの信徒への手紙。

（4）『関西学院学報』（第一号、一九二一年七月二十五日）に「四月二十日木曜日晴天午前九時より中央講堂献堂式を挙行しました。（式次第　略）来賓中には有吉県知事、水島神戸高等商業学校長、県学務課長大西一郎氏、西灘村長西岡安右衛門氏学院各理事其他紳士淑女多数来会せられ以上盛会裡に無事儀式を修了しました」とある。（四頁）

（5）中国の善書（勧善の書）で、もっとも初期の、かつもっとも著名なもの。南宋（一一二七～一二七九）の初め、李昌齢によって作られた。人の寿命・禍福は、その人の行為のいかんによって定められるとする勧善懲悪の書であるが、宿命論的な因果応報説とは異なる。人の行為は、北斗星、三尸（さんし）神、竈（そう）神などの司命神によって日夜監視され、すべて天に報告される。その報告記録にもとづいて、天が寿命・禍福を決定したり変更したりすると説く（『平凡社大百科事典』一九八五年）。

（6）当時の牧師は竹林拙三。

（7）蹴球部と英艦ダーバン、レナウン号との試合について『開校四十年記念関西学院史』（一九二九）に「大正十一年、英国皇太子殿下の、我国を御訪問遊ばされし際、御召艦並びに供奉艦たりしダーバン、レナウンの両艦は、五月神戸港に入り、同月二日より四日に亘る三日間、神戸市の主催にて学院運動場に於て、アソシエーション式蹴球戦を行ひぬ。第一日は両艦の対抗試合、第二

日はダーバン号対学院専門部、第三日はレナウン号対神戸高等商業学校なりき。此の試合に於ける学院の成績は四対二の敗なりしが、競技場を提供し、且つ、終始此の試合のため尽力せし事に就き、特に英国皇太子殿下御附武官より鄭重なる礼状を贈らるゝの光栄を得たりき。」とある（一七二頁）。

（8）『関西学院学報』（第二号、一九二二年六月二十三日）に「吾が専門部は東京駿河台日本基督教会牧師小平国雄氏を聘し特に五月八日より十三日まで毎朝八時五十分開会新中央講堂に於て専門部学生に対して氏の説教を聴聞させました氏は種々の方面より縦横自在に基督教を説き十分に青年の脳裡に基督を印象せられ精神生活の上に多大の稗益を与へられました。而して其の演題は左記の通りであります。〈新時代に於ける基督教の使命〉八日、〈青年第一の宗教〉九日、〈多神生活より一神生活へ〉十日、〈イエス中心の生活〉十一日、〈神の子の霊覚〉十二日、〈神国建設と創造的人生〉十三日」とある（五頁）。

（9）明治二八年（一八九五）、大日本武徳会が京都に結成され、武道の総本山として全国に各支部を置き、武徳殿を造営。日本古来の武道を再興し、その保護、奨励と国民の士気をかん養する目的で、桓武天皇の平安遷都一一〇〇年を記念して、平安神宮の境内に建設された。兵庫支部は明治四〇年に、神戸の諏訪山に創設され、その後、姫路・西宮・加古川・篠山・洲本支所が設けられた。これらを拠点に演武大会や、武術の講習会が開催されるなど、兵庫県下の武道の普及振興に大きな役割を果たした（『兵庫県大百科事典（下）』、神戸新聞出版センター、一九八三）。

（10）『関西学院学報』（第二号、一九二二年六月二十三日）に「学院学生会宗教部は五月十五、十六、十七の各晩新中央講堂に於て羅馬法皇親閲と称する有名なる聖劇クリスタス（基督伝劇）全七巻の活動写真によりて基督の御生涯を眼前に描出し吾学院卒業生木村巳之吉君外一名の弁士が熱心且つ巧妙に説明せられたので前三晩を通じて六千の観集を感激せしめ非常なる好結果を挙げたのは誠に感謝すべき事であります。而して三晩に集まった献金は約二百円でありました。

中村藤吉氏、日野宗牧師、アウターブリッヂ夫人、オール関西聖歌隊の諸子が奏楽、講演、独唱、合唱を以て此会を助けられましたのは亦鳴謝すべきことであります。」とある（五頁）。

（11）現在の劇研究会で、大正十一年創立、翌十二年に劇研究会に改称した。（『開校四十年記念関西学院史』一九二九年、二一九頁）

（12）『関西学院学報』（第二号、一九二二年六月二十三日）に「吾

学院専門部主催大阪朝日新聞神戸支局後援の全国専門学校学生弁論大会は五月二十七日（土）午後五時及七時の二回本学院中央大講堂の開催せられました。近畿地方専門学校は更なり遠く東京或は広島より馳せ参じたる言論の勇士諸君は各得意の快弁、達弁を揮つて或は哲理を説き或は芸術を談じ或は時事を評し其の平生蓄積せる研究を遺憾なく発表せられました。此種集会に附物の弥次（ママ）も亦盛にして活気旺溢せる有益な集会でありました。弁士は凡て約四十名聴衆は昼夜を通じて千三百名程でありました。」とある（五頁）。

（13）『関西学院学報』（第二号、一九二二年六月二十三日）に「吾文学部は本年校舎を新築し七十餘名の新入学生を迎へて逐年内容外観共に堅実なる発展を遂げつゝありますが今回同部社会科学生は河上、新明二教授指導の下に社会学研究の目的を以て社会学会を組織することゝなり其発会式を兼ねて記念講演会を六月三日（土）夜七時中央大講堂に開きました。聴衆約九百名を得、今回の挙を賛して特に下神せられたる大山郁夫、長谷川如是閑二氏は得意の題目下に各熱弁を振ひ聴衆も亦三時間に亘って熱心に傾聴し甚だ有益なる集会でありました。両氏の演題は大山氏現代の傾向と社会学との交渉長谷川氏国家の進化と社会意識でありました。」とある（五頁）。

（14）『教界時報』（第一六〇八号、一九二二年七月七日）に「第四回同講演会は六月十六（金）十七（土）の兩日午後神学部講堂に於て開かれた。十六日には中野教授の『釋迦の仏教』松永教授の『卽身成仏史観』の講演があつた。聴衆は大部分学生で全て百二三十名であつた。十七日は高野山大学学生三名の講演及び松永教授の『佛身に就て』の講演があつた。

昨年一月その第一回として我が関西学院の教授学生数名は高野山大学に至り基督教に関する講演を行つた。爾來回を重ねること四回、一回は一回よりとよき成績を挙げつゝあることを私は特記したい。昨今特に宗教が社会一般人士の注意を引くやうになつて來たが、我々はこうした時流の外に立つて永劫の真理のため、不変の事実のためにそしてそれが研究のために精進するものである。この試は徒に外面的に花々しくてはならないものである。そこには危険がある。我々は著実に眞面目にこの試みを末永く繼續して行きたい。実にこれは日本に於ける最初の試みであり、日本に於ける基督教史上に特筆すべき一事実であることを自分はひそかに信じて居る。（一安生報）」とある（八頁）。

（15）関西学院高等学部山岳部主催、神戸又新日報社後援の「日本アルプス大講演会」が中央講堂で約六百名を集めて開催された。アルペン研究家の榎谷徹蔵氏の「日本

アルプスの挿話」、信濃山岳会長の牧伊三郎氏の「日本アルプス現況施設に就て」の講演と信濃山岳会幹事の手塚順一郎氏によるスライド映写が行われた。（「神戸又新日報」大正十一年六月二十四日付）

（16）『関西学院学生会時報』（第二号、一九二二年六月二十八日）に「二と二とを加へて四以上になると云ふ事は其効果と云ふ小黠から見れば、あらゆる運動を通じて眞理である。昨夏北陸信州地方に一大文化運動を試みたるに商科会、宗教部、激論は、愈々本夏学生会主力の参加を得て、満鮮に一大精神運動を起さとして居る。既往運動、或は競技に於て勇名を馳せし我学院が、宗教、学術上に於ける蘊蓄を傾例して精神文化発展の爲めに貢献し得る事を思へば　快哉を叫ばざるを得ない。因みに、道程、参加者名次の如し、二十九日午前神戸出発、釜山、大邱、太田京城、仁川、平壌鎭南浦、奉天、旅順、大連、七月十一日大連上船の豫定、参加者は神崎部長、岸波、河上、亀徳、馬淵、アウタブリッヂ（ママ）の諸教授、及びアウタブリンヂ（ママ）夫人、学生は、熊木、桟敷、大島、鈴木、米谷、喜田、海邊、（以上商四）、大石（文四）、脇田（商三）、油谷（文三）の諸君であら（ママ）」とある（一頁）。

（17）一九二二年六月に創刊された雑誌。「当時一年生だつた小松一郎君が編集兼発行人となり、同人としては佐藤清氏、志賀勝氏、松田明三郎氏、竹内勝太郎氏、岸麥氏といふ顔振れで、高級な文芸雑誌をつくるという事がその目的であつた。投稿は自由であつて文芸に関するものなればなんでもいゝといふ方針、但し会員になるためには一口拾円の維持費をおさめなくてはならないことになつてをり、足掛三年立派な雑誌を続けてゐいた。」（『文学部回顧』文学会編輯部、一九三一年、一一八頁）

（18）岩崎、小山の演説とあるが、高等商業学部同窓会の『会報』第一号（一九二四年六月三十日発行）では、大毎社員岩崎愛二（四回卒業生）と山岡昇（五回卒業生）が食後に感話したとある（一二～一三頁）。

（19）校医で、『開校四十年記念関西学院史』（一九二九）に「学院の嘱託校医は、久しく桑田熊太郎其職に在り、後加藤喜作、大正六年四月以来昭和四年三月学院移転の日まで熱心事に当たりゐたりしが、四月退職せしにつき、学院は慎重に協議したる上後任として回生病院副院長野口詮太郎に嘱託する事となりたり。」とある（一九五頁）。

（20）正しくは小林政二（大正十五年英文科卒）。

（21）ルカによる福音書のこと。

（22）神戸東部教会のことで、前年（一〇二二年）八月に現在地の上筒井通五丁目に移転している。当時の牧師は

堀峰橘。

（23）H・W・アウターブリッジのこと。外＝アウター、橋＝ブッリジで、外橋という印鑑も使用していた。

（24）居留地七八番にあった中華料理店。

（25）高等商業学部同窓会の『会報』第一号（一九二四年六月三十日発行）に第二回同窓会総会の報告記事がある。「大正十二年三月五日午後六時明海ビルデイング七階にて第二回同窓会総会開催。当日は本年新に卒業された方々を招き併て五月十五日帰米の途につくニユートン前院長の送別とを兼ね、会するもの百五十有余名。」さらに同窓生の小野田芳之による送別の辞が記されている。「（前略）身を神に捧げ八十有余の高齢まで学院発展の為めに尽力され、常に温厚篤実、博愛慈仁の心もて我等も亦グランドファザーの心持で接してきた。原田の森のグランドファザーは平和と仁徳の表象であつた。（後略）」。これに対し「ニユートン前院長感激のあまり言葉さへ出ない。（中略）思出の深い日本を去つても朝に夕に神に祈る。学院の運命は実に若き同窓生諸君の双肩にあるのであるから一致団結して学院発展に尽くされ、国家有為の人物となられたい。この記念品は、いとも意義深い紀念として頂戴します。有難ふ。有難ふ。」と答えている（一三～一四頁）。

（26）佐藤清教授の辞任に際して『学生会時報』（第六号、大正十二年四月三十日）に「文学部教授として、来任以来十年その間我が学院の一の誇りとして学生から敬慕されて居た詩人にして、英文学者なる佐藤清先生は、或る事情から今般東京女子高等師範教授、及び女子大学講師として東上さるる事になり、学院教授を辞任された。近畿詩壇に於て、漸くその名がうたはれんとして居る折柄全く惜しい事である。學生会としては花瓶一筒を送別記念として贈呈した。先生最近の著書に『愛蘭文學研究』『海の詩集』等がある。」とある（一頁）。

（27）大正十二年扇野、川口、川西、平井、大森、岩本等の精鋭を選ぐって須磨の大会に大挙し連戦連勝扇野の第一優勝を始め第二優勝第三優勝団体優勝等学院の手に帰し最高優勝の名誉を擅にした。（『関西学院学生会抄史』一九三七年）六五頁。

（28）『開校四十年記念関西学院史』（一九二九）に大正十二年四月、前学院長ゼー・シー・シー・ニュートンは院長退職後なほ神学部教授として務め居たりしも、老齢健康漸く優れず、夫人は殊に著しく心身を害ひしとの故を以て、その第二の故郷ともいふべき日本の地に永訣して、故国なる息女の許に帰らん事を求めしかば、理事会並びに南メソヂスト教会伝道局は、その願を容れて、彼の神学部教授たる事を免じたりき。依つて学院は、彼が多年の功績を偲び、今や永へに相別れんとするに

際し、惜別の念禁ずる能はず、四月二十三日中央講堂に於てその送別式を行ひぬ。式後彼は一本の銀杏樹を中央講堂の西南側に記念として植ゑしが、こは元来明治三十七年十一月三日天長の佳節に際し、ニュートン院長の友人たりし村上文学部教授が、その邸内に播種せしものなりしを、移植せるものなり。今此の樹は学院移転に際し、再び移されて宗教館西側にあり。（一四八～一四九頁）

（29）五月二十一日から二十六日まで大阪で開催された第六回極東選手権競技大会のこと。この時陸上競技部の中沢米太郎が棒高跳びで優勝した。関西学院が国際大会で初めて獲得した金メダルとなった。（米田満『関西学院スポーツ史話』二〇〇三年、三〇二頁）

（30）全国大学専門学校雄弁大会が大阪朝日新聞社後援のもとに中央講堂で開催された。参加校は東西四十有余を数え、聴衆も千数百人を集めた。（『学生会時報』第八号、二〇一三年六月三〇日発行）

（31）高等学部学生会学芸部語学部で、現在の英語研究部（ESS）。

（32）一八九二年一一月一三日神戸生まれ。普通学部卒業、高等学部商科を退学して画家の道へ。メキシコ、ハバナ、スペイン、フランスを巡り帰国。戦前は制作のかたわら神戸女学院、関西学院の嘱託教員を長く務める。戦後は芦屋大学などで教鞭をとった。金井紀子「関西学院の美術家―神原浩と北村今三―」（『関西学院史紀要』第六号、二〇〇〇年）に詳しい。

（33）高商主催の第九回銀カップ大会で、六十余校が参加。四回戦で天王寺商業、準決勝で御影師範と勝ち進み、決勝で明星商業に買って優勝。（『関西学院スポーツ史話』三三九頁）。『関西学院中学時報』第六号（一九二三年一二月一五日）に「我れ全勝の勢威満場を圧したりしが敵に一ゲームの勝を譲りて我れ優勝す。かくて我部の黄金時代は来た。こゝに我庭球史に輝く一頁を飾れるを特筆する」とある。

（34）一八六六年一二月二〇日アメリカ・ボルチモア生まれ。宣教師として九三年に来日し、国内各地の伝道に従事した。この日、同じく学院の理事であったS・E・ヘーガーとともに日本宣教三十周年を迎えた祝賀の会がもたれた。

（35）呉教会牧師。（日本メソヂスト教会第十七回西部年会記録）

（36）一八八六年、カナダ・ノヴァスコシアに牧師の子として生まれる。一九一〇年に来日。一二年関西学院神学部教授に就任。組織神学、ギリシャ語、新約聖書釈義、教会史を教えた。この時の帰国は休暇で、ニューヨークのユニオン神学校に学んだ。再度来日し、三九年に

大学法文学部長兼専門部長に就任したが、戦争のため辞任して帰国。四七年、再々来日して大学学長に就任した。その後理事長、院長を歴任。一九一二年の着任以来、戦時下を除いてその大半を学院の為に尽力した生涯であった。一九七六年三月二六日逝去。

（37）佐伯講義所執事。（日本メソヂスト教会第十七回西部年会記録）

本資料の翻刻には、元本学大学院文学研究科大学院生の山下真弘さん、永野啓子さん、大学図書館職員の羽田真也さんの多大なる協力を得ました。記して謝意を表します。

（井上琢智、川崎啓一、高木久留美）